

第1号
1972

会報

にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会



高知ダイハツは
皆様と共に前進します
どうかよろしく。



同窓生(卒業年度順)

27年(機) (取)販売部長 井上 健弘
30年(機) サービス部 整備課主任 安並 克郎
38年(機) 同課係長 山崎 速雄
40年(機) 同左中村(営) 酒井 泉
41年(機) 同左須崎(営) 係長 竹崎 諄一
42年(機) 同左須崎(営) 梅原 一悦



42年(機) サービス部 整備課 古谷 泰雄
42年(機) 同左 竹村 均
43年(機) 販売部須崎(営) 谷脇 純一
44年(化) サービス部 整備課 竹村 忠史
46年(機) 同左 島崎 伸夫
47年 販売部 北川 義隆



㊦の分譲住宅ご案内…お気軽にご相談下さい

■豊かなあすを築く、梅原建材の分譲住宅を■

- ※ 代金のお支払いは5～20年ローンで支払えます。
- ※ 当社の分譲住宅は、耐久性のある内地材を使用しております。
- ※ 日本の風土に適した、健康的な木造住宅を選びましょう。
- ※ 不良外材は使用しておりません。

発売予定場所	団地面積	戸数	備考
高知市平和町	900 m ²	8戸	工事中 上街へ徒歩8分
〃 薊野	2,300	20	〃 高知駅へ徒歩15分
〃 大津	4,000	40	〃 土電電停へ徒歩6分
〃 高須	4,000	40	〃 バイパス近く
〃 朝倉	198	2	完成 朝倉神社西団地

分譲住宅・新建材・木材 (永大産業特約店)

有限会社 梅原建材店 (住宅部)

代表取締役 梅原 務 20年機械卒

高知市宝町30-19 TEL (0888) 22-9155～7
22-9160

会報 にしきつら

高知県立須崎工業高等学校同窓会 会報

にしきうら 第1号 目次

表紙	新校舎写真入り	
にしきうら発行にあたり	同窓会長 田 辺 博 造… 1	
ご挨拶	校長 村 木 威… 1	
ご挨拶	前校長 沢 本 豊… 2	
◎ 母校だより		
学校移転の前後について	教 頭 久 正 一… 5	
機械工場の移転	機械科長 坂 東 長太郎… 6	
造船科の近況	造船科長 合 田 正 寛… 7	
電気科—移転と新施設	電気科長 森 義 彰… 7	
新校舎に移って	化学工業科長 田 所 靖 通… 9	
須工と私	教 諭 竹 村 義 典…10	
新旧雑感	教 諭 広 瀬 雄 助…10	
有 感	教 諭 田 村 隆 徳…12	
◎ 同窓会会員名簿訂正用アンケートと同窓会費納付のお願い		
◎ 支部だより		
東京支部から	東京支部長 片 岡 命 長…13	
大阪支部から	大阪支部長 西 川 嘉 明…14	
名古屋支部から	名古屋支部長 岡 林 縣 市…15	
高知市種崎地区`須工会、	須工会幹事 岡 林 幸 保…18	
◎ 昭和46年度卒業生名簿		21
◎ 昭和47年度母校教職員名簿		25



同窓会長 田 辺 博 造

にしきうら

発行にあたり

同窓の皆さん、お元気で活躍のことと思います。このたび、高知支部発足を契機に、同窓会活動の盛り上がる気運の中で、会報の創刊号を発行し、お手元にお届けすることになりました。

いうまでもなく、会報は、母校の状況や同窓会の動向、会員の消息などについて年々移り変わる様子を知らせあう上に、欠くことのない役割りを持っており、会報の発行が順調に行なわれるようになってこそ、はじめて同窓会活動も軌道にのると言われております。この意味で、会員名簿と会報の発行は、同窓会活動の中で最も重要な部門であり、ある意味ではこの二つの仕事を進めてゆくことが、同窓会の主たる活動だといっても過言ではないと思います。これとほどこさように重要な意義を持ちながら、これほど困難な、然も地道な努力を要求される作業もありません。出来上ったものは、いとも簡単に見えますが、実にいい知れない関係者の苦勞が凝結されているものであります。

今回我々の会報として出版の運びとなりました。にしきうらも決してこの例外ではありません。清家寛、森岡清、柏井秀明君らの熱心なご活動、特に退職後も深く須工の同窓会を愛し、ご心配下さって常に、陰に日なたにご指導下さり、たびたび編集会議にもご出席下さってご指導、ご助言頂きました前校長 沢本豊先生、その他編集委員諸氏の、大変なご尽力とご協力の所産であり、心から感謝

に耐えませんが。

今後出来得れば年一回、本誌の発行を行ない、皆さんの「交流の庭」「交歓の広場」を提供したいと願っています。

そのためにも広く会員諸君の積極的なご投稿、ご通信を切にお願い申し上げます。

先に創立三〇周年記念誌にも報じられました母校の新舎屋は、本年十一月落成式の予定と聞いております。

その機会に、母校創立の恩人、寺尾豊先生の胸像の建立、除幕式も併せ行なうようにしなければならんと考えます。

これが実現にも、皆さんの強力なご支援を切望してやみません。また、出来得れば、時を同じくして、同窓会臨時総会を開いて旧規約の改訂をはじめ、今後の同窓会活動の方向を討議したいと考えておりますので多数の御参加を期待してやみません。

終りにのぞみ、みなさんのご健康と益々のご活躍をお祈りし、ご挨拶と致します。

挨拶と致します。



ご 挨拶

校 長 村 木 威

この度、新築移転の難事を見事に成し遂げられました名校長 沢本豊先生の後を受けまして、不肖私が本校に着任致すことになりました。もとより非力非才ではありますが、三十年の歴史ある輝かしい伝統をけがさない様に誠心誠意をもって努力致す覚悟でございます。四月の始業式、入学式等二日間だけは旧校舎で行事を行ない四

◎ 特 集 高知支部の発足と新生母校の紹介

ご 挨拶	高知支部長 清 家 寛	27
同窓会高知支部の発足		28
(会則・支部役員名簿・支部会費納入要領)		31
新生母校訪問記	高知支部 森 岡 清	44

◎ 詩 と 随 筆

足 摺 岬	高知支部 大 崎 二 郎	57
同 窓 会 その運営の難しさと楽しさ	前 校 長 沢 本 豊	59

◎ 想 い 出 話 し

懐しい紅顔の頃	副 会 長 矢 野 亀 雄	62
---------------	---------------	----

◎ 同 窓 だ よ り

一 睦 会 発 足 の 日	高 知 支 部 竹 村 昌 孝	64
再 会	” 竹 内 良 一	66
第 三 の 道 路	” 清 家 寛	67
女性はだれでも宝石がほしい	” 福 岡 昭 七	68
写真についてのアドバイス	” 江 淵 俊 明	69
味の古里、心の古里、高知!!	” 吉 岡 伊 助	70

◎ 事 務 局 だ よ り

ご 挨拶	同窓会事務局 一同	71
同窓会会計・創立30周年記念事業会計 現況報告 各種証明書の発行について	母 校 事 務 室 よ り	73

◎ 編 集 後 記	編 集 委 員 会 一 同	74
-----------------	---------------	----

月十日より多の郷和佐田の高台に新築された白亜の殿堂に全校職員生徒が移転し授業を開始致しました。

二階建の広大な体育館も間もなく竣工致します。玄関前にも今大きな庭園造りが始まって居りまた秋には盛大な落成式を致したいと思っております。遠くから眺めた丘の上の学園、また学校屋上から見渡した海や山の景色、何れもすばらしいの一語につきます。この様な立派な学園に恵まれたことは皆様方の長い間のご努力ご苦労が実を結んだものと、ここに改めて感謝の意を表わし、併せて今後のご指導とご援助をお願いしてご挨拶と致します。

(昭和四十七年五月二十五日 創立記念日 於校長室)



ご挨拶

前校長 澤 本 豊

先ず、最初に同窓会高知支部の結成と同窓会報『にしきうら』の創刊を心からおよろこび申しあげます。

私は、昭和四十一年四月から去る三月末まで満六年間皆様方の母校に在職いたしましたがこの間校長としてまた同窓会の名誉会長として大変暖いご援助をいただきましたことを厚く御礼申しあげます。

特に昨年学校の創立三〇周年記念事業として計画いたしました『創立三〇周年記念誌』の発刊と同窓会名簿の発行に對しましては多数の方から力強いご支援をいただき無事所期の目的を果し得ましたことは誠に感激にたえないところでございまして重ねて厚くお礼を申しあげる次第でございます。

私の後任には工業教育に造詣の深い村木威先生が安芸工業高校の教頭から転補されました。私同様よろしくお願い申しあげます。

殆どの方はすでにご承知のことと思いますが、学校は多ノ郷和佐田の高台に敷地を移し校舎も鉄筋コンクリート三、四階建の堂々たる姿に生まれ変わりました。三月末には機械設備、備品など総ての移転も終えまして四月からこの新しい校舎で授業が行なわれております。

これも偏に同窓先輩諸氏やPTAのご支援の賜でございまして感謝の外はございません。学校の教育は学校のみで完璧を期することはできません。学校、PTA、同窓会三者一体となつてはじめて血の通った断絶のない、暖い人間教育が出来るものでありまして、その意味で学校の同窓会に対する期待は非常に大きいのでございます。

昭和四五年には岡林縣市氏(昭和三三年機械科第二種、不二越工業社長)のお骨折で、同窓会中京支部が結成されて名古屋市を中心とする会員百余名が固く結ばれております。この度、また清家寛氏(昭和一八年機械科第二種、清家商会専務)を中心とする有志の方々の大変なご尽力で南国市以西、土佐市以東に在住する卒業生五〇〇名余で高知支部が創設されましたことは誠に喜ばしく同窓会に大黒柱ができた感じがいたします。須工の同窓会に一エポックを画したものと云つても過言ではなく、母校にとつても限りなく力強いことだろうと思ひます。

同窓会の健全な発展を心からご期待申しあげましてご挨拶といたします。

(四七・五・二〇)



大阪セメント株式会社

高知工場

須崎市押岡123番地

TEL (08894) 2-2522 (代表)

取締役 溝口 芳郎
工場長

高知県立須崎工業高等学校同窓会

大阪セメント分会世話人 北川和雄

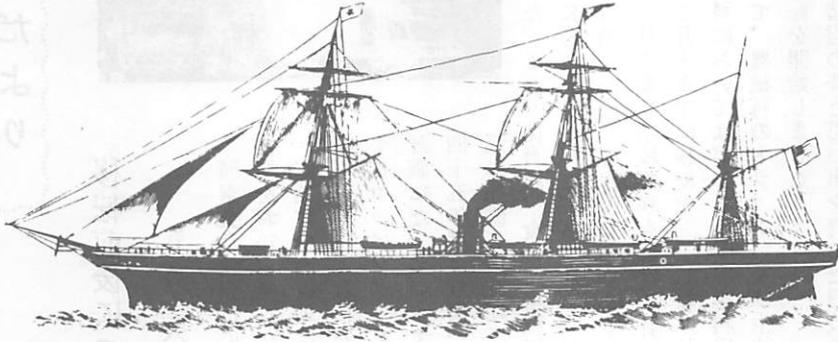
(昭和26年機械科卒)

他86名

ささいな出費を警戒せよ。

小さな穴が大きな船を沈めるであろうから…

フランクリン



 四国銀行

本店～高知／四国4県下・東京・大阪・神戸・岡山・広島


Sprinter



Guts!
パブリカ

トヨタオート高知(株)

- 本 社
高知市札幌13の1 TEL 高知 (0888) 83-3221～6
- 中 村 営 業 所
中村市具同2713 TEL 高知 (08803) 5-4123
- マイカーセンター
高知市御座3の1 TEL 高知 (0888) 83-3227～8

母校だより

移転前後について

教頭 久 正 一

同窓会会報発行に当り学校の移転の模様をお知らせしたいと思ひます。



の予定でありました。また、体育館、食堂、格技場は五月末に完成の予定で高知土建KKの手によって工事は進められていました。問題は旧校舎の機械設備及び備品の移転でありました。

旧校舎において三月末まで学校業務を続け四月より一斉に授業を開始するためには三月末までに移転を完了しなければなりません。二月中旬頃から各科においては実習の時間等を利用して備品をポール箱に箱詰めにして、機械科のトラック、及び生徒によって持ってゆけるものから移転を開始しました。

三月一日卒業生諸君の夢と思ひ出を育んだ旧校舎における最後の卒業式が厳粛な中行なわれ二〇〇名の卒業生が巣立って行きました。この卒業式をもって旧校舎より巣立っていった卒業生は三七六

五名(内女子六一名)となります。

二日は移転対策委員会によって移転に対する計画が協議され、三日より八日まで学年末テスト、十三日入学試験、十五日第一定員選考委員会、十七日運送業者(丸通、四国運輸、日通、須崎仲間組)に現場説明入札後日本通運に落札して愈々移転が具体化して来ました。

十八日旧校舎にとつても沢本校長にとつても最後となった終業式が行なわれ、沢本校長より旧校舎への名残りとして新校舎へ移転後の発展の意をこめられた訓話があり在校生の行事を終了しました。そして二十一日より日本通運のトラック、フォークリフト、レッカー車等により各科の機械類及び備品の運送が本格的に開始されました。手違いのないようにポール箱及び備品には新校舎何階の何室へと記入し、機械類は担当の先生が立会のもとに運んで貰ったわけです。

二十三日合格者発表、二十五日新入生指導日には新入生及び父兄に入学式に対する諸注意、学用品の販売を終了、二十四日には旧校長室と新校舎応接室において新旧両校舎に対する修被式が行なわれ社会福祉センターで期成同盟会、同窓会、PTA、本校職員により移転祝賀会が催され関係各位に対する慰労がなされました。

新校舎移転に偉大な業績を残された沢本校長は三十一日付にて勇退され、四月一日新校舎に十代目の村木校長が着任され、沢本校長より事務引継ぎがなされました。

三日に待望の水道が開通し五日(大雨)には新校舎視聴覚室にて職員会が開かれ四十七年度の学校の態勢を決定しました。

七日には体育館が未完成のため旧講堂において沢木先生方の離任式、村木校長方の新任式に引き続き始業式、午後には新入生の入学式が行なわれ、八日には新入生並びに在校生との対面式、諸説明、

ホームを最後に旧校舎における学園生活に終止符がうたれたわけだ。この日は雨でしたが今迄の垢を洗い清める雨なのか将又別離を惜しむ雨なのか感慨一入のものがありました。

四月十日(晴)職員生徒全員新校舎を仰ぎつつ進入路の坂を登って初登校、全員による大掃除のあとホームルーム、新しい机、腰掛の教室配置、各クラス毎の校内見学等により和佐田ヶ丘の新校舎における須崎工業高校の学校生活に第一歩を踏み出したわけです。屋上からの眺めも素晴らしく北に桑田山を仰ぎ南に波静かな錦浦湾を望み、新天新地光明の輝く丘に見事三十にして立った感でありませぬ。十五日には第一種三期卒の奥代重恭殿外九名の方々寄贈の大時計を沢本先生が大西時計店の車にて搬入され正面玄関の壁に設置されました。この時計の如く本校も日々新しい歴史を刻んでゆくことでしょう。

今後は進入路の舗装、運動場の整備、学校庭園の造成、プールの新設等なお多くの問題を抱え責任を痛感していますが、須工発展の為に努力する覚悟でございます。

十一月二十五日には落成行事を行なう予定ですが、その節はご来校の上見学して頂きたいと思えます。今日三十回開校記念日に当り卒業生諸君のご健斗をお祈りいたします。



機械工場の移転

機械科長 坂東長太郎

待望久しかった校舎の移転が終った。昭和の激動期に多くの若者

を産業界に送り出したこの古い機械工場も、去る三月機械設備の移転とともにその長い任務を終った。

工場のすみや工具室の奥から出てきた終戦時代の古い機械、三十年近い歴史を秘めた大小のガラクタ、更に開校当初から機械科のシボルグの様に工場の入口にあった大きな老朽した、それでも最後まで働いてくれたプレナー、それ等も遂に姿を消してしまった。

ガラんとした工場あとに立って、この古ぼけた工場に若き日の想い出を残していられるであろう多くの卒業生の方々のことを考えて誠に去り難い気持であった。

新装成った新しい機械工場は鉄骨平家建で広さも充分あり中央の通路を境として一方は旋盤、諸機械、仕上げ台が整然と並べられ、他方には鑄造、原型、工具室、板金、溶接の各実習室が区切られて並び近代的な実習工場としての貫禄を示している。尚機械科職員室や生徒更衣室、ボイラー室等あり、機械科の中心部となっている。

機械実習室は二棟の一階の東半分を占め材料試験、工業計測、精密工作、熱機関、流体機械の各実習室がつくられている。機械科の製図室は本館の四階にあり広い明るい室内には真新しい製図板や机、腰掛がおかれ全員がドラフターを使用するようになっている。

これ等の実習実習室はこれからの生徒たちの技術と精神のきびしい修練の場となるわけであるが、又若き日の懐かしい想い出の室ともなっております。そして先輩の方々の輝かしい伝統の上に新しい理念と技術を身につけた若者たちが次々と果立って行くのを楽しみに、及ばず乍ら日々の努力をさせて頂き度いと念じている。



造船科の近況

造船科長 合田 正寛

三十年の歴史と数々の思い出を残して西札町の旧校舎から、四十七年度より多の郷和佐田の高台に新築された白亜の新校舎に移転し、造船科の施設、設備も十分とは云えないまでも、旧校舎の施設、設備に比べると格段の充実率であろうと思われまますので各実習室のご紹介を申し上げます。

製図室は本館三階に二室設けられ、スチール製の製図机も殆ど完備されています。

今迄はトレース製図中は、トレース用紙を製図板に貼りつけた假で何週も置いていたので他のクラスに気兼ねしたことでしたが、その心配もなくなり、伸びくと製図実習が出来るようになりました。製図室に隣接して標本室があり、各種の船体模型類の教材が陳列してあります。この模型類も年々充実されているのも嬉しいことの一つです。

第二棟一階北側に溶接板金実習があり、旧校舎の実習室の三倍程もあり大物の溶接も可能となりました。

建造実習室も新しく出来、小型舟艇の建造実習が十分出来ます。

機械実習室、船用機関実習室も二棟一階南側に設備され、今迄の様に機械科実習室を借用しなくて済む様になり、肩身が広くなりました。

第三棟一階に造船科職員室があり、須崎湾が望まれます。

職員室に隣接して木工実習室、現図実習室、大型建造実習室があ

ります。

木工実習室も以前よりはずっと広く、各種の木工機械が設備されています。

現図実習室は床面が緑で、現図線が鮮やかに浮き出ています。

大型建造室では現在四トン型のF・R・P船が造船クラブ員によって造られています。南北にシャッターが設けられていますので、以前の様に搬出に苦勞することもなくなりました。

校舎の一番南側に船体性能実験室があります。水槽の長さ三十一メートル、巾二・一メートルで我国での重錘式試験水槽では一番大型のもです。水槽での生徒の実習作業の場も広く今迄の様な不便はなくなりました。

波形調査の観測窓も広くとり、写真撮影が出来る様に投光器も設備されました。これからは以前にも増して地道な研究が出来ること喜んでる次第です。

以上の様に各実習室は旧校舎に比べれば、格段の相違で造船字に關する実習を十分に行なえるものと思われまます。

これからも造船科教員一丸となって、より良き造船技術者を造船界に送り出したいと張り切って居ります。

造船科の近況をお知らせして拙文を終りたいと思います。



電気科―移転と新施設―

電気科長 森 義 彰

新校舎をめぐる構内の整地作業も漸く最終段階にはいりまして、

グラウンドには連日ブルドーザのエンジンの響きが、緑真深い六月の山々にこだましています。

私達が、この多の郷和佐田の地に新装なりつつあった新校舎への移転準備の段取りを開始したのが、二月初旬。桑田山おろしが肌を刺し通す季節のことでした。これから一ヶ月。二年生（現三年生）を主軸とする移転班を編成し実習と並行して担当の先生方の協力と指導のもとに、メーター並びに他の計器類は殆んど運搬し終えることが出来ました。学校も春の休暇にはいった三月下旬には、日本通運による学校挙げての本格的な移転作業が始まり重量物の搬出が続いたわけですが、電気科は他科に比して取扱いが手軽な機器が多いせいか比較的スムーズに進行しました。

さて電気科新施設についての概要の紹介に移らせていただきます。通称南舎と呼ばれる棟の二階北側に二二・四㎡の電力室（衝撃波発生装置による高圧実習等を行なう）一二九・六㎡の電気計測室（今年各科の協力によって購入するミニコンピュータを主とした計測実習等を行なう）一二九・六㎡の電子計測室（テレビジョン、パルス発生装置等による弱電部門の実習を行なう）二二・四㎡の高周波実習室（シールドルームを有する）等が配置されています。そして更に南側別棟、専門棟二階には電気科管理室（電気科職員室のこと）六四・八㎡の電気応用室（暗室には球形光束計等を備えてをり照明工学実習を行なう）が陣取り、又廊下をへだてて北側には一六二㎡のスペースを有する電気機器実習室が設備されていて室内には十三対の発電動機が各分電盤の前に整然と肩を並べていて強電実験の教場としての貫禄も充分です。正に電気科の中核というに相応しい内容を誇っています。この棟の階を昇って三階の北側には九

浚渫・埋立・港湾・一般土木・生コンクリート製造

共進建設株式会社

専務取締役 中平(旧姓植村)徳喜 1種2期

本社	須崎市浦の内灰方6の13	TEL⑥0390
高知営業所	高知市蓮池町33	TEL⑧24840
生コンクリート工場	須崎市浦の内灰方1152-24	TEL⑥0390
自宅	土佐市宇佐町28889の9	TEL⑥0028

七・二㎡の自動制御室（発電機の電圧、周波数制御等の実習を行なう）その隣りに六四・八㎡の電気工事実習室も完備され、又本館の二階には一七二㎡の製図室が整って居ります。斯様に、アンテナの架設を除いて殆どどの工事は終わった現状ですが、移転搬入された計器類は各施設への分納据付に手間取り、未だ若干の時日を要する雑然さで魂を入れる段階にはとても至っていませんが、近日、これ等があるべき場所に落着く頃には新設備の使い心地も板につこうかと期待している次第です。

待望の体育館の完築も間近に迫りやがて周辺の工事的雑音から解放される日も遠くありません。この別天地で心を一転。三十年間培かれた、よき伝統を踏まえつつ更に加えて健やかな新校風の樹立にいそしみ度い所存です。先輩諸兄ご支援下さい。



化学工業科長 田所靖通

新校舎に移って

昭和四十七年四月十日より須崎市多ノ郷和佐田五四四五ノ二〇の山の上の白亜の新校舎に入りました。

住み馳れた旧校舎に別れを告げて新校舎に入って職員生徒共に新しい歴史の一頁をつくるべく気持を新たにしている今日この頃です。

国道五六号線より別れて未舗装の道をたどって登り坂にかかり急傾斜の道を上りつめると一休みしたくなる頃玄関にたどりつきます。未だ校舎の周囲や運動場は整地の最中で体育館は工事中、そし

て、プールも未だ出来ていませんが、校舎など主要な建物は立派に完成しています。

この立派な校舎にふさわしい充実した教育をと念願している現在です。しかし、初代校長中内先生もよく話されて居られたとのことですが、パーキンソンの法則によれば「施設設備が良くなれば必ず内容が悪くなる」とか、即ち校舎がよくなればその中身が悪くなることを恐れる気持で一杯というところでは。

創立当時校舎もろくにない時に入ってきた先輩諸兄は実に優秀であつたとよく田村隆徳先生に伺って居りますので、出来ればこの新校舎で一、二回生に勉強して貰いたいと思つて居ります。それは新校舎の所

ここで一つの提案をしたいと考えて居ります。それは新校舎の所在地の地名に関して

でありませぬ。須崎市多ノ郷和佐田五四四五の二〇では何かピンと来ないので、この際新しい名前を考へる訳です。和佐田という地名にも何かいわれがあると思ひますが、出来れば同窓会の皆様のご尽力によつて何とか新地名をつけて頂きたいと思ひます。

第一生命はあなたのご家庭にかぎりない幸せとゆとりをお届けする“平和の使者”でありたいと願っています。

第一生命須崎支部

支部長	田辺	博造	二期一卒
事務所長	山本	澄子	
"	市川	邦美	
"	増田	和歌	
"	川田	琴征	
"	中城	武弘	

具体的に「豊山」或いは「豊台」という名前はどんなものでしょうか。理由は創立功労者寺尾豊先生の功績を永遠に伝えたいという気持ちと移転新築に特別のご努力をされた沢本豊校長の労を謝す意味で、たまたまお二人が同じ豊というお名前前でありますので、その豊という字を頂いてはという訳であります。

市役所との交渉次第では不可能ではないと思いますので、同窓会の方でご一考下されるようお願いいたします。



須工と私

教諭 竹村義典

三十年間、種々の思い出ある札町の校舎より、大間の高台の新校舎に移り一ヶ月過ぎました。いま体育館の仕上工事、グラウンドの整地作業が行なわれており、その後造園工事が行なわれることでしょうが、まさに面目躍如というところです。

それに加えて、同窓会の組織固めが、前沢本校長始め同窓生有志の並々ならぬご努力により出来ましたことは、ご同慶にたえません。

願ひますと、昭和二十二年始めて教員として、勤務させてもらってから二十五年、出身は高知工ですが、私の人生にとっては須工が一番大切なものとなりました。奉職当初は機械科と造船科のみで、家族的なふん囲気でしたが、昭和二十三年夏の火災が転機となり、須崎高校との統合問題の解決後は、電通科、化学工業科、電気科の増設、相撲、卓球その他のクラブ活動の隆盛、特色ある文化祭

等、発展の道をたどり、卒業生は各界で活躍されるようになりましたが、失礼ながら同窓会の組織が気がかりでした。私共、教員は辞令一枚で、どこへ転動になるかも知れませんので、学校の伝統を守り続けるのは同窓会だと思います。そしてその同窓会の基は、より正確な名簿発行だと信じ、微力ながら造船科につきましましては、毎年発行し努力してきました。昭和四十四年全体の名簿が完成し、これをもとに岡林氏の献身的なご尽力により、中京支部の発足をみました。更に、関東支部、大阪支部の再建、続いて高知支部が結成され、本部の推進役となり、また昨年度は前沢本校長のリードにより『創立三十周年記念誌』が発刊されましたことは、新校舎移転とタイミング良く、一段落と云った感じです。

古ぼけた校舎、大きくなった楠……札の工業学校も間もなくその姿が見られなくなるかと思うと感無量ですが、三十年という歴史の上に、立派な校舎、設備が出来ましたので、私達が中味の教育に努力しなければと決意を新にしております。母校発展の為、今後共よろしく願ひします。

皆様方の益々のご発展とご多幸を心からお祈り申し上げます。

(教務部長)



新旧雑感

教諭 広瀬雄助

今回、同窓会々報の第一号が出版せられることは、須工職員の一入としてご同慶に堪えません。開校三十年の歩みを西札町の旧校舎

から、ここ多の郷和佐田の高台に移し、新学年のスタートと共に会報の発行されますことは、須工發展の上からも意義深いものがあると思います。

新築移転後、約一ヶ月半となりますが、授業と並行して体育館の建築、又運動場の整地作業が急ピッチで行なわれ、日一日と完成しつつある現状であります。

これも期成同盟会の方々の並々ならぬご尽力、沢本豊前校長先生の寝食を忘れてのご努力、それに同窓会の皆様方の愛校心が結集して、この偉業を成し得たものと確信するものであります。

校歌の第二節に、自然の暗示わが教え 太平洋の荒波は わが人生の活動か さらに心の平穏は 波静かなる錦浦

と歌われているように、南東の眼下には静波をたたえた内港が、又西南に眼をやれば、城山と池山の山峽より遙かに紺碧の水平線が望め、雄大そのものの展望であります。

そして、自然の新緑に包まれた新校舎は、まさに校歌の精神がそのまま生かされた立地条件を備えた学問の殿堂ともいえましよう。

それだけに、西札町時代のさまざまな出来事が想い起される今日今頃でもあります。中でも昭和二十三年七月の漏電による大火は忘れ去ることの出来ない、本校にとっては、まさに興亡をかけた出来事であったといえましよう。

学校として機能の大半を燃失したあの時、それに派生して起った学校統合問題、この難局を切り抜けるために講堂を薄板一枚で仕切ったの授業等、苦難の数ヶ月を過しました。

そして、校舎再建負担金獲得のため、三代校長、故小林秀雄先生以下、教職員、生徒が一丸となってアルバイトをしたこともありま

した。同年九月の久礼八幡宮の大祭に、市内の商店から金物を卸してもらって、小雨降る参道で楸や庖丁を売ったことも、今から思えば懐かしい思い出であります。

又、三年に一度の文化祭、そして仮装行列、着想、規模においても、須工の仮装行列は須崎市内の名物になっておりましたが、年と共に激化しつつある道路交通事情、それに今回の移転等で、長蛇をなして須工健児の意気を甚に誇示したあの姿も、再現出来なくなつたかと思うと、一抹の哀惜を覚えます。

スポーツで、又、文化活動等で築き上げてきた数々の偉業を基に、私達はさらに、この新校舎に花を咲かせ、実をつけ、内容的にも優れた人材の育成に努力しなければと念じております。

本年度の校務分掌で、進路指導の仕事を私も受持つことになりました。

一昨年から発足した、高知県就職対策連絡協議会によって、進路保障の確立、進路情況の他校との交流、事業所の学校訪問禁止等、それらの実績はあがりつつあるものの、身上調書の中国四国統一書式の未決定など、まだまだ大きな課題が残されている現状であります。

ドルショック以来、さらに推移の激しくなった業界の情況を把握し、現時代に即応した進路指導の確立に努力すると共に、かつて不況の時、須工がお世話になった事業所、そして卒業生一人一人の築き上げてきた社会的実績、これらにこたえるために今後とも微力を尽していくつもりであります。

(進路指導部長)



有感

教諭 田村隆徳

最近とみに同窓会の動きが活潑になって、まことに結構なことと存じます。

先般その一つである高知支部発会式に参加させて頂きましたが、その規模、内容共に立派で感心いたしました。

ご出席の方々のお顔ぶれを拝見いたしました。須工も成長したもんだなあとの感慨を深くしました。古くは四十も半ばをすぎた油のり切った時代から、三十代、二十代の若さに至るまで、二百人前後の方々一堂に会して議を練り歎をつくす有様は、壮観とも思えました。

この発会式をここまで漕ぎつけた裏方さんのご苦勞は大変だったと思います。一つの事を成功させるには裏方さんの地味な縁の下の力持ちがなければ成就しません。

この会に列席して特に感を催したことがいくつありますが、その中でも、私は私なりに、あゝこれは良かったなあと思つたことがあります。それは会の進行の中で、故人に対して黙禱を捧げる一場面のあったことです。卒業生の中で、戦没された方々、若くして病死された方々、或は陸上海上で奇禍に遭遇された方々等、相当な数にのぼっておる筈です。又、須工を今日まで育て、来られた先生方で他界せられた方々も多くあります。須工を愛する者は、そして須工の縁につながる者は、現状を謳歌する前に、機会あればこれ等故人に対し、敬虔なる慰霊と感謝の祈りを捧げるのがエチケットだと

思うのですが、この何気ない風に行なわれた黙禱に対して、私は、心から、あゝ良かったなあと思ひました。そして、こういうこまかな心づかいが払われる会であれば、線香花火的な、上すべりな会とはならないであろうと感じました。

これは支部発会式の一光景ではありましたが、どうか将来とも、同窓会の各種催しが、過去、現在、未来に亘る心のつながりを持った豊かな心情のもとに運営され続けて欲しいと希うものです。



東京電気(株) 高知出張所

東芝レジスター

高知市稲荷町1(光産業ビル内) TEL 82-4818

37年度卒業生

所長 村上 義栄

東芝レジスター経営相談室では下記の事項を行っております。御利用下さい。

店舗設計・出店計画
経営相談・商品仕入
市場調査・繁営計画
従業員計画

支部だより

東京支部から

東京支部長 片岡命 長

母校の新築移転、東京支部会誌の発行等で一気に盛りあがった支部の集いも、季節と共に冬眠状態でした。二週間位前、日本橋の海地さんから、新卒の方々の歓迎会をかねて集ったかどうか、という電話を頂きました。確か五月末か六月の中頃までに全国高校校長会が開かれるので、校長先生を囲んで会をもちたいと考えている。

四、五日前、田辺会長より電話があり、支部の近況を知らせてほしい旨、先手を打たれた観もあったが、早速校長会の予定についての御連絡をお願いした。比較的近くにいる富士通の矢野さんに電話したところ、どこかのビヤガーデンあたりでやったらどうですか、という話。それ迄に気になる商売の方を何とか目標に近づけて、半年ぶりの支部会を開きたい。

先月二十一日に、某メーカーの代理店会で高知三翠園に行った時、須崎まで足をのぼしたかったんですが、次の日は帰って販売店の海外旅行会を羽田で迎えることになっていたのでどうすることも出来なかった。会合の間に、県庁へ行って、二十年近くも会っていなかった、井口、国広君を訪ねた。お互いにおじさんになったという話から始まって同級生の消息について話合った。次の機会には新しい母校をたずねたいと思っている。

(昭和四七年五月十日)

県下唯一の船舶専門設計会社

昭和船舶設計株式会社

船舶の設計及び管理

高知市材木町市原ビル4階 TEL(0888)83-1875 (代表)

代表取締役 前田二郎(高知支部会員) 宮地修作 (高知支部会員)

取締役 三本泰司(") 松丸敬史 (")

取締役 吉岡康幸(") 沖 和孝 (")

宮尾 寛(") 西村敏男 (")

沖 光雄(") 他 社 員 12 名

大阪支部から

大阪支部長 西川 嘉明

須崎工業高等学校同窓会高知支部が、母校創立以来三十年にして
 結成せられ、役員も決定を見、これを契機に同窓会本部に於ては、
 会報「にしきうら」発行等の事業も計画しているとのことを承り、
 心からお喜びを申し上げます。

同窓会としては、東京、大阪、名古屋の各地区に既に支部が設置
 されておりますが、何といつても、地元高知県に支部がないのは、
 幹のない木のようなもので、支部としては何か地に足のついていな
 い感があったのでありますが、今回の高知支部の発足は、地元高知
 はもとより、全同窓会の再発足として、極めて大きな意義を持つも
 のであると考えます。

人生において最も大事な数年を、須崎工業高校で共に過した同窓
 生として、いつまでも連絡をとり、相協力して行くためには、同窓
 生の情報を蒐集する組織と活動が必要であります。この意味におい
 ても、母校の所在地であり、卒業生の生家の多く存在する高知支部
 が同窓会の中核となって活躍せられんことをお願いすると共に、会
 報「にしきうら」の創刊号発行を心から祝福し、これを機会に各地
 の同窓会が、ますます発展することを願うものであります。

おわりに、高知支部発足並びに会報発行に際し、お骨折り頂きま
 した諸兄に、感謝申し上げますと共に、須崎工業高等学校同窓会の発
 展をお祈り致します。

(昭和四十七年五月十五日)

東洋電化工業株式会社

高知市萩町70
 TEL83-1241(代)

汲田	(高尾)	信男	26年	機械	●中	城	一	人	38年	化工
氏原	和弘	33年	"	●西川	(芝)	政子	39年	"	"	"
西山	森寿彦	33年	"	●石	黒本	明光	洋	40年	"	電気
中山	賀一郎(興)	34年	"	●笹	本木	正	雄	41年	"	"
中田	村義幸	37年	電通	●在	岡	村	正	41年	"	化工
田村	村一留	37年	化工	●岡	柳	本	憲	42年	"	"
田森	光武	38年	"	●柳	谷	岡	直	43年	"	機械
島崎	武男	38年	機械	●谷	岡	直	三	43年	"	機械

東洋ケミカル株式会社

高知市萩町70
 TEL83-1241(代)

渡辺憲太郎 30年 機械

東洋園芸食品株式会社

(本社)高知市萩町70
 TEL83-1241(代)
 (工場)土佐山田町戸板島
 TEL2-2184(代)

中西安男 32年 機械

中京支部創立以降のあゆみ

中京支部長 岡 林 縣 市

母校創立三十周年と共に校舎新築移転、又高知支部の創立発足お目出とうございます。心よりお喜び申し上げます。

一九七〇年八月九日、金鏡の城下町でうぶ声をあげた、母校同窓会中京支部も、早二年の星霜を迎えんとしております。すぎ去った僅かな才月ではありますが、この間の一駒一駒を記述いたします。

創立総会 一九七〇年八月九日(日)

会場 大極殿飛雲閣 会員八八名

母校 沢本 豊校長先生 田村泰雄同窓会事務局長

田辺博造同窓会会長 三名

参加者 二〇名 計二三名

八月二十日 会員七六名に対し(総会後の調査により会員数訂正)

創立総会議事録 会則 同窓会名簿 記念写真 同窓会報 スナッ

プ写真発送

十一月八日(日) 第一回役員会

役員四六名中 参加者十三名

会場 デート・パーラー大極殿

田辺同窓会長より祝電

会誌「タタキ」発行の件 年二回(原稿があつまらないため創刊

号も発行していない)

会員 田村昭男君(昭四三・機卒)の交通事故御見舞

第二回総会開催の件

十一月二五日 第一回役員会の決議に基づき出席役員(記念写真)

あなたのカーアクセサリー
レジャー用品は

ドライブショップ **マルキ**へ……

高知市梅ノ辻19番7号

有限会社 **マルキ**

代表者 昭和21年機械卒 柏井 秀有

TEL75-0989

欠席役員計四六名に対し報告書並びに確認書発送 会員に対しては「タタキ」の原稿依頼と第二回総会についてのお知らせを発送
一九七一年一月一日 会員に対し年賀状と総会期日の通知
一月一日 第二回総会に対する案内状発送 七六名
一月二四日(日)

同窓会事務所の西隣 キッチンオースで開催
会員七六名中 参加二五名 欠席四九名(内欠席回答十九)

所在不明二名

母校よりの新校舎進捗状況を報告

会則に決定した総会、役員会の開催回数とその時期、会費等につき改めて全員に対し意見を求める(往復ハガキ使用)

会報「タタキ」の原稿があつまらないので協力要請した結果、原稿用紙を送付して二月末までに提出

昭四六・三月卒十二名について協議 来るべき八月の第三回総会には歓迎のため無料招待をすることに決定

記念撮影及びスナップ撮影
一月三十一日 三月卒業予定者十二名に対し本人並びに父兄に対し同窓会中京支部についての事をリーフレット式で発送する

二月五日 第二回総会に於いての決議録及び出席者に対しては記念写真を含め七四名に発送(「タタキ」の原稿用紙も)

往復ハガキで第二回総会で決議した総会、役員会等のアンケート季刊「タタキ」の発刊は暫く留保、アンケートについては具体的な成果なし

三月一日 中京方面就職者十二名に祝電

五月十八日 母校より創立三十周年記念事業についての件につき沢

本校長より

連絡があり

五月二八日

来名のため

緊急役員会

の招集案内

四四名

五月二八日

沢本校長を

かこみ出席

役員六名で

協議

創立三十周

年記念事業

として校史

を作製する

に対し会員

の協賛につ

いての依頼

をうける

六月十日

母校より

「創立三十

周年記念誌

の発行につ

あらゆる商品青果物の
包装用段ボール

三和段ボール
株式会社

吾川郡春野町弘岡上 仁淀大橋際
TEL 春野 (088894) 2301(代)

常務 22年機械 松本 勇

いて」同窓会長田辺博造

「移転新築について」期成同盟会長 天野剛利 副会長 沢本豊の案内書到着 これに基づき記念事業達成のため会員訪問についての日程及び就職先の関係各課に協力方の要望書等立案計画

六月二六日～七月八日

名古屋市、市外、三重県北部、計二二社を岡林県市、春田陽三、野瀬事務局員で訪問

七月十二日 母校に対して記念事業協賛の推進状況を報告

尚同窓会東京支部結成の都合上当支部に対して七月開催の総会又はそれに準ずる会合の要請があったが準備等の都合上八月二九日開催に踏切る

八月五日 第三回総会に対する諸準備完了会員に文書発送 九二名

八月二九日(日) 熱田区 賀城園で第三回総会

母校 沢本 豊校長 田辺博造同窓会長 竹村義典先生

会員 二九名 計 三二名

会長の挨拶により総会はすすめられた

同窓会長田辺博造氏より同窓会の状況 沢本校長よりの三十周年

記念事業の進捗状況 竹村先生より進路指導部の状況について報告があった

新規就職者(昭四六・三月卒)の紹介 記念撮影を行ない、懇親会にうつる

特に田辺会長に対しては三十周年記念事業に対する協賛について

目録を提出

十月二四日 当会長より三十周年記念誌原稿送付

十一月十日 協賛金一六四〇 一六万四千円送金

一九七二年一月一日

同窓会中京支部より年賀状

一月二五日 母校同窓会より「会員名簿」三十周年史寄附者名簿と
どく

二月二日 沢本校長上京の帰途来名 当会長 副会長と懇談

二月二八日 四七年三月卒業生中、中京方面就職者に対して十一

名、その父兄に対しても同様同窓会中京支部について案内

三月一日 母校に対し祝電

三月二四日 高知県立須崎工業高等学校移転新築期成同盟会

会長(須崎市長) 天野 剛利

学校長 沢本 豊

同窓会長 田辺 博造

以上三名に祝電

四月二四日 前校長沢本先生来名、在任中のお礼にこられた。緊急のため会長と春田副会長とのみで会合。

本年八月開催予定の第四回総会には新旧両校長先生及び田辺会長は勿論、本部同窓会役員を招聘して行なう

大体以上が創立総会以降のあゆみであります。支部運営において新機軸を求めていかないとマンネリ化してくるおそれがあり、今春田氏と密接に連絡をとりあって乗範の第四回総会を開催する予定であります。

職域別、地域別、卒業年代等を充分検討して校歌の一節に示された新天地光明の地域社会のとりでを築く決意に燃えすすんでいきます。
(昭和四十七年五月十五日)

種崎地区須工会

須工会幹事 岡 林 幸 保

(S・28 船卒)

須工同窓会会報「にしきうら」の創刊に際し紙面をお借りして、種崎地区須工会を紹介させていただきます。私が高知市種崎の造船所に勤めることになったのが昭和三十年八月の盛夏であった。その当時この地区の造船所に勤めている須工卒業生は昭和二十九年卒業の堀見正君と昭和三十年卒業の片山清君の二名であったと記憶している。三十一年に安並洸吉君(三十年卒業)を初め二、三名の者が勤めるようになった。そんなとき、その年の瀬もおしせまり、あちこちで忘年会の音が聞かれている頃、堀見君が「幸ちゃん須工会を作ろうぜよ、一度皆んな集って一パイ飲みながら話し合うこともええぜよ」という話が出て早速皆んなに相談した。僅か六、七名であったせいもあり、すぐ賛成して呉れて会合することが出来た。

この時、会の名称を仮称種崎地区須工会ということに決めた。

三十二年、三十三年となると私と同年卒業の西内健一君、浜崎温美君や新卒生がやって来た。こうして年々その人数は増していった。当初は種崎の、ある料亭で会合を催していたが長浜の県造船に新卒生が入社して来たら会場を種崎と長浜で交代で催すことにした。母校の先生を招待するようになったのもこの頃からであったように思う。そしてまたこの会場の交代制も人数の増加で不便さを感じ、種崎、長浜両方から交わることの出来る高知市内にしようという事になっていった。

昭和三十一年の暮れに第一回の会合を催して以来、種崎、長浜地

区の造船及びその関連工業に働く須工同窓生は須工会という名で昭和三十一年の暮れまで年一回、春と年の暮れに不肖私が幹事役となり、広見君、堀見君、西内君等の協力で年々新しく各社に入社して来る後輩を交え会合を催して来たのであった。

昭和三十一年、高知港改修工事に伴ない種崎地区の造船所(土佐造船、大東造船、平田造船、今井造船)は新山本造船所を除いて仁井田の埋立地に移転することになり三十一年の秋に新工場へ移ったのである。これを機



新入会員自己紹介のスナップ

会と云ってはおかしいが今後の須工会のあり方についても考え直さねばと思ひ、この年の暮れの会合についての申合せも兼ね、各社の会員代表者を集まってもらい、色々に協議し、その結果、これからの会合の幹事は、新山本造船、高知重工業、今井造船、県造船の順で持ち廻りにすることにし、会長に広見君、副会長に西内君、堀見君、そ

して私ということに決め、そしてこの年の暮の会合を最後に年二回の会合はやめて春の新入社員歓迎会として須工会を持統することにした。そして現在も尚続いているのである。

発会当初、堀見君から会規約を作って対外的にもはづかしくないような須工会にし、皆さんでがっちり結束して行こうではないかと云う話があり私が案を作ったがそれを検討し発表することもなく今日に至ったのは残念であった。会規約のようなものもなく、このようなことで、この須工会が果して何時まで続くか心配であった。が初期の会合に於いては人数の少なかつたこともあるが全員と云っても過言ではない位、出席してくれていたのである。

これと云って目立った活動もしなかつた。それは年々、激しくそして大きく発展し、変り行く造船の仕事に追われ、会の活動に力を入れることが出来なかつた私の能力不足と努力のたならなかつたのが原因であり会員諸氏に申し訳なく思うのである。

然し春が訪れば「今年の須工会は何月にするんですか、まだですか」と誰からともなく催促？されるほどにこの会合は会員に親しまれている？ようになっているのである。

此の度、須工第一期卒業の清家さんが総発起人となり須工高同窓会高知支部が結成され我々種崎地区須工会の会員も高知支部会員に入会したが、この須工会は今後も続けて行く気持を会員が持っていてくれるのである。

思えば十七年前、種崎、長浜地区の造船及びその関連工業が将来大きく発展し、須工卒業生も年毎に増すであろう。その時、この地区に最初に来ていた者が、後続者を暖かく迎えてやるためにも何かの形の会を作っておこうと云った堀見正君の先見の明と気持がここ

に生きつづけているのである。

会合の時は、新入生と、招待した母校の先生方を上座に座って戴き、まづその年の幹事役である会社の会員代表者の挨拶より始まり、先生方から激励のお言葉を戴き、新入会員の自己紹介が行なわれ、会長亦是幹事役の代表会員の音頭で各社の発展と会員の健康を祈念しての乾杯から宴会へと入って行くのである。宴なかばに於いては歌あり、かくし芸ありで仲々楽しいものである。散会時は母校の校歌を合唱して解散である。会費の配分は卒業年度別に何段階かに分けて実際にいった費用を割当てていたが人数も多く幹事も大変だろりと云うことで昨年（四十六年）からは頭割りにすることにしていく。新入社員はもちろん無料である。この新入社員というのには一つの定めがある。それは須工高を卒業したその年の三月からこの会が催される月（大体四月と六月の間）までに種崎、長浜、仁井田地区に就職された者に限るとされている。故にそれ以後に就職された者には気の毒なことながら宴会費用の無料は適用しないことになっているのである。

いずれにせよ、このような形で後輩を迎えたと同時に同窓生の親睦をはぐくんできて来たいた地区はそうざらにはないだろう。

今年（四十七年）は新山本造船が幹事の当番であった。五月の二十日高知市の日亭で、母校の先生を初め清家高知支部長を招き盛大にそして有意義に催されたようである。私は社用にて県外出張の為に出席出来ず残念であった。新山本造船の幹事さんご苦労さんでした。

終りに会員の明細を個々にあげませんが、総計一二〇名（四十七年五月現在）余りであることを記して以上種崎地区須工会の紹介と致します。

各種段ボール 製造販売
パッキングケース



四国段ボール(株)

高知工場

高知市神田 電話 (代表) 73-1296

貨物自動車運送・土木建設用資材輸送・埋立・土木工事

高知輸送株式会社

26年 機 上田 泰生

高知市追手筋28(関西ビル3階) TEL72-3746
73-5425

各種自動車修理並に車検受け

有限 中央オート整備

25年・機 上田 勤

高知市南の丸 TEL32-1010

同窓生諸兄の御健康と
御発展をお祈り申し上げます。

サトウ・ハチロー先生命名

登録銘菓 **吾子まんじゅう** 製造舗

お菓子の専門店

梅原晴雲堂

20年・機械 梅原 健一
高知県須崎市巾町 TEL②0254

隣のクルマも

Yes! Sunny

Sunny Excellent 1400



 日産ガニー高知販売株式会社

本 社
高知市鴨部1-1 (4)3201
中村営業所
中村市具同2210-1 中村(5)4186
安芸営業所
安芸市伊尾木 安芸(5)2355

会員名(38・機)浜田伸夫・(37・機)藤原紀雄
(41・化)谷 益好・(43・機)川上公雄
(43・電)滝本良博・(46・機)明神辰夫

特集 高知支部の発足と新生母校の紹介



同窓会高知支部発会式



新生母校の一角

ご挨拶

高知支部の発足と

会報発行

高知支部長 清家 寛



同窓の皆様方にはますますご健勝にてご発展のこととお慶び申し上げます。

私この度同窓会高知支部の発足に当り、ご推挙を受け支部長の重責をお引受けすることになりました。素より浅学非才にて十分なことは出来ないと思いますが、有力な高知支部の役員の方々、並に熱心な同窓会本部の会長、副会長さんはじめ、事務局の方々並に諸先生方のお力添えをいただき、高知支部の同窓一致団結してその目的達成のため努力いたしたいと存じておりますのでよろしくお願いたします。

昨年度は母校創立三十周年に当り、二つの大事業が行なわれました。一つは母校の移転新築であり、他の一つは母校の創立三十周年記念誌の発刊であります。

ご承知の通り私達の母校は、高知工業高校創立の精神に則り、寺尾豊先生の篤志によって三十年前紩町に建設されました。その当時の模様並にその後の経過などにつきましては、前述の記念誌に詳しく誌されております。同じ紩の母校に共に勉学に励んできた者にとってこの記念誌は、お互いの心の古里として、また同窓の絆として、末永く机辺に置きたいものと存じます。

また母校が、多の郷和佐田の丘陵に移転新築したことは、我国が

敗戦後の混迷を脱して高度成長を遂げ、七十年代の世界の指導者とならなければならぬ地位に躍進した今日、将来の日本を背負い、国家社会に貢献することの出来る有能な人材を育成する上に於て、一つのエポックを劃したものと云っても過言ではないと思います。田辺同窓会長が、記念誌の紙上に於て「三〇立志」ということについて述べられております。

「三〇にして立つ」という言葉があります。

……古来人生の転機を年令的には壮年期のスタートとも言うべき三十代においては象徴的な名言であります。

……

なぜなら壮年期に入った母校には、壮年期にふさわしい内容の裏付が必要であり、その意味に於て、同窓会の果す役割は、今後ますます大きいからであります。……と申されております。

また去る三月二十



清家高知支部長の挨拶

四日行なわれました母校の修葺式並に、移転祝賀会の席上、移転新築期成同盟会長天野剛利氏（現須崎市長）もその祝詞に於て、新校舎の落成を祝すると共に、これから、この新しい学校に新しい魂を入れてほしいと申されました。私も列席の一員として全く同様の感に打たれたのでございます。

新任の村木校長先生を中心として諸先生方には既に十分なご構想もあられることでございます。

在校生の諸君にもそれなりの決意もございましょう。どうかその内容に於て、日本一の工業高校として、更に大きく飛躍出来るよう、基盤の充実に努力くださいますようお願いいたします。

同窓会高知支部も、母校隆昌のこの機運をのがさず発足いたしました。既に結成を見ております、東京、名古屋、大阪などの力強い支部に習い、また相互に連絡を取り合いながら、今後の発展と充実を計ってゆきたいと考えております。

また同窓会本部におかれては、この度会報「にしきうら」の出版が企画され、ここに創刊号が立派に発行されましたことは、誠に御出たく、意義深いものと存じます。

この会報「にしきうら」が、関係者をはじめ、同窓各位のご支援助とご協力によって、ますますその内容を充実し、同窓会発展の原動力となり、引いて母校発展のために貢献いたしますよう願ってやみません。

母校の移転新築、三十周年記念誌の刊行に続く、高知支部の発足並に会報「にしきうら」の発行に当り、母校の弥栄と、同窓各位のますますのご繁栄をお祈りし、合せて高知支部に対する一層のご支援助をお願いしてご挨拶といたします。

同窓会高知支部の発足

須工の同窓会は、これまで、あつて無きに等しいといわれてきました。その最大の原因は、地元高知に、これという地盤がないからだ、ともいわれ、また、母校の先生方からは、すでに「東京、名古屋、大阪には支部があつて、仲々意気が上つている」ということも、事あるごとに聞かされてきました。

地元高知にも、その胎動とでもいえるものはありました。それは高知市種崎地区の造船業界を中心とした集り「須工会」や、その他二、三の企業内の同窓の集いなど小さいものは、五、六名から大は百名を超えるものまでさまざまです。

このたび、同窓会高知支部が、こうしたいくつかの必然性を背景として発足の運びとなつたわけですが、そこには、生みの親とでもいふべき、前校長沢本豊先生の、まことに適切な人材選びとアドバイスが、支部発足の良きリーダーとして活躍されている清家寛先輩に与えられたからといえましょう。

話の始まりは、創立三〇周年記念誌の座談会「開校当時の思い出」のあと、雑談中に前記の話から、須工同窓会にとつて、地元支部を発足させることこそ重大な使命であり、これなくして須工同窓会はあり得ない。と、まあこういふ話になつてきたようです。

さて、この話を背負つて帰つたのが清家、広田の両先輩でした。その後しばらくは、いかにして、支部を発足させればよいかについて、事の重大さに随分考えをめぐらされたことと思ひます。結局、この仕事は、大勢の人達の力をかりよう、そのために必要なことを私がやろうと決心されたと思うのです。

昭和四十七年三月末のこと、高知市を中心とする周辺、東は土佐山田、南国市、西は伊野、土佐市の各地区に在住している何人かの同窓生は、突然、清家さんからの電話を受け、この時、高知支部発足の話が、一期の先輩方を中心に具体化しつつあることを知らされました。

続いて、三月一日には、同窓会本部並びに、母校の先生にもご出席頂き、高知市商工福祉会館二階の小ホールで、須工同窓会高知地区懇談会を開催し、この時の出席者二十六名が、高知支部結成について話し合い、全員の賛同によって、今後の推進役として積極的に活動することを申し合いました。

多くの会合の発起人といえば、有名人や年輩の知識人と相場が決まっていますが、本支部の発起人は、第一回卒業生から昭和四十年頃の卒業生まで新旧混成であります。また、一般の同窓会では、先輩のいう事が絶対的な決定権を持つのが普通であります。しかし本会では、先輩の発言も、若い後輩の発言もまったく平等に取り上げられ、まことに建設的、意欲的な会合でした。

この発起人会の話題は、高知支部をどのように発足させたらよいかに焦点がしぼられました。

どの地区の支部でもそうでしょうが、この支部の発足については、先づその地区に散在している同窓生に対する呼びかけをしなければなりません。この呼びかけの方法については、すでに先輩格の支部である東京、名古屋、大阪の各支部がとった方法、さらには、沢本先生からのアドバイスを参考に、一つは、各企業単位で同窓生の名簿を作り、他の一つは昨年発行された同窓会名簿から、個人の居住者をひろい上げ、これを地区別に整理してゆくことになりました。

各企業名簿については、すでに述べた「須工会」のように、すでにまとまっているグループも多く、これらは本会発足の強力な力となりました。また、これを機会に新たにグループを成した企業など、組織固めは着々と進み、各企業単位の名簿が連絡係である清家さん宅にとどけられてきました。しかし、個人の地区別名簿の作成は、まことに煩雑で、根気のいる作業で、この方は、清家さんをはじめ、広田（二種一期）、田村（同）、柏井（二種三期）、岡林（二八・船）等の各氏を中心となつて精力的な作業のお蔭で、これもちままち大成しました。

一方、支部の発会式については、七名の執行委員を選任し、三月十一日に会合をもってここで、式次第、会則案、会

●技術と信用の店
ナショナルショップ
ツボヤ電化
32.機 坪屋 一夫
高岡郡日高村駅前
(088924) ~ 2206

費などの具体的な準備計画案をまとめました。

発会式は盛大に行なうことにし、趣意書を作り、すでに作成した臨時の支部会員名簿をもとに、会費一、一〇〇円で出席者をつのつた所、二百八十名の多数の同窓生が集うと予測されることになり、会場、料理の準備、出席者名簿の作成など執行委員はうれしい悲鳴をあげる始末となりました。

さて、これはいよいよ、発会式という段取りになるわけですが、本会の発足について、ここまでどうかぎつけた裏には、執行部や会員有志の方々の並々な努力と、遠方から事あることにかけて、たびたびの会合や打合せにわざわざ出席頂いた会長の田辺先輩や沢本先生、久教頭先生等多くの方々のご協力がありました。

発会式の当日、執行委員を始め、発起人の手のすいた方々は、早い目に会場である高知商工福祉会館四階の大ホールに集合し、緊張した面持で準備を始めました。母校本部からも、応援を兼ねて創立三十周年記念誌販売のため、数名の職員がかけつけて下さり、会場入口には、卒業年度別の受付も作り、出席者をまちうけました。

間もなく、このような会ではどこでも聞かれる威勢のよい挨拶「よう!!」「やあ、しばらく」の言葉が飛び始め、受付前は混雑し、会場も段々と席がつまってききました。

定刻の六時半、ほぼ満席となった会場には、ご招待した母校の先生方も着席され、いよいよ発会式を始めるお膳立てが整い、司会者が「これから、高知県立須崎工業高等学校、同窓会高知支部発会式を行ないます」と、開会を告げました。

会が円滑に進行するように、ご出席の皆さんのご協力を願い、また発会式が意義深いものなることを祈りながら……。

次に、当日の会の要目をかかげておきます。

日時 昭和四十七年三月十六日
場所 高知商工福祉会館四階ホール
受付 午後六時から六時三十分
開式 午後六時三十分
司会 昭和二十六年・機卒 森岡 清
式次 第

- 一、開会の辞
 - 二、物故職員、同窓会員追悼の黙禱
 - 三、発起人代表挨拶 広田 四郎(二・一)
 - 四、同窓会長挨拶 田辺 博造(二・一)
 - 五、母校校長挨拶 沢本 豊(校長)
 - 六、母校先生並びに本部職員の紹介
 - 七、議長副議長の選出
 - 八、協議 イ、会則について ロ、役員選出 ハ、その他
 - 九、新役員挨拶
 - 十、閉会の辞
 - 懇親会 挨拶 支部 部長
乾杯 沢本校長
 - 宴会 校歌合唱 全員 万才三唱 副支部長
- 会は、黙禱に始まり、挨拶、紹介、議長選出、協議と参会者のご協力によって、とどこおりなく進行し、無事終了しました。
- 本会議の議長は、清家寛先輩、副議長は、竹村昌孝先輩のお二人で、先ず会則についての討議の後、これを決議、次いで役員を選出を行ない、これも決議しましたので、それらを次にかかげておきます。

高知県立須崎工業高等学校同窓会高知支部会則

第一条〔名称〕 本会は高知県立須崎工業高等学校同窓会高知支部と称する。

第二条〔目的〕 本会は会員相互の親睦、母校の発展をはかることを目的とする。

第三条〔会員〕 本会の会員は正会員、特別会員とする。

一、正 会 員

イ 旧高知県立須崎工業学校を卒業したもの

ロ 高知県立須崎工業高等学校を卒業したもの

ハ イ、ロ、に在籍したもので支部長が推薦し、役員会で認められた者

二、特 別 会 員

イ 高知県立須崎工業高等学校の現旧職員

ロ イ同様に本会に特別縁故のある者で支部長が推薦し役員会で認められた者

第四条〔事業〕 本会は第二条の目的達成のため総会又は役員会に於て決定した事業を行う。

第五条〔事務所〕 本会は事務所を支部長宅に置く。

第六条〔分会〕 本会には地域、職域毎に分会を置くことができる。

第七条〔役員〕 本会に次の役員を置く。

〔任 務〕

支部長一名、副支部長三名、会計一名、理事及幹事若干名、監査二名

支部長は支部を代表し会務を統括し諸会議の議長となる。

副支部長は支部長を補佐し、支部長事故ある時は支部長の任務を代行する。

会計は本会財政の運営に当る。

HONDA

ホンダ技研工業(株)特約店

ホンダ二輪・四輪・発電器・販売修理

ホンダ販売高知

代表者 佐竹 福馬 (36年機卒)

高知市比島町1丁目11-7 TEL(0888)23-0543

理事及幹事は役員会の構成人員となり、本会の業務と活動の執行に当
る。

幹事は主として分会内の業務を担当する。

監査は本会の会計を監査し、その結果を会員に報告する。

本会に顧問、相談役を置くことができる。

第八条〔役員任期〕 役員任期は三ケ年とする。但し留任、重任を妨げない。

第九条〔会議〕 本会の会議は総会及び役員会とし、支部長が必要と認められた場合又は会
員の三分の二以上の要望があった場合は臨時に総会を招集することが
出来る。

第十条〔総会〕 総会は次の事を行う。

一、経過報告及提案事項の審議

二、会計報告の審議及予算の決定

三、役員を選出

四、その他重要と認める事項の審議

第十一条〔役員会〕 役員会は支部長が招集し、総会で議決された事項の執行ならびに本会
の運営に当る。

第十二条〔会費〕 本会の会費は通常会費又は終身会費とする。

一、通常会費は年額五〇〇円とし、毎年四月に納入するものとする。

二、終身会費は一万円とする。

三、会費納入要領については別に定める。

四、本会会員の本部会費は本会会計より納入する。

第十三条〔会計年度〕 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月末日に終る。

第十四条〔会則の変更〕 本会則の変更は総会によって決定する。

附 則 この会則は昭和四十七年三月十六日より施行する。

事務機・事務用品、
スチール家具

 宝文堂

高知市宝永町 172 〒 780
TEL 高知(0888) 820717

25年造船 福永徳七郎

麺類各種・包装麺・スパゲティー
サッポロラーメン・餃子皮・雲吞皮
ところてん・氷・氷蜜・製造卸

 麵業株式会社

25年機 傍示 忠義
高知市北本町 10 の 28
TEL (高知) 75-9181(代表)
(0888) 門田82-5864
販売店松尾72-0775
傍示72-1617

会則のなかで、第十二条〔会費〕について少しふれておきたいと思えます。もともと私達同窓会員は、年会費として三百円を母校本部に納めることになっていますが、いろいろの事情から、なかなか納められないのが実状です。

高知支部では、会費を「年会費」と「終身会費」の二種類としました。終身会費は、支部のの基金として銀行預金とし、年間利息を、支部会費並びに本部会費に充当する考えです。

支部会費の納入要領は別に定め、この要領に従って地区および職域幹事が納入の願いをすることになっています。

支部会費納入要領を次に示します。

(この会費納入要領は、発会式後の役員会で協議作成したものです)

支部会費納入要領

支部会費は会則の定めに従い、次の二種類のうち何れかを選んで納めて下さい。

(1) 通常会費 年額五〇〇円 毎年四月に納入

通常会費は何年分かをまとめて前納されても結構です。

(2) 終身会費 一〇、〇〇〇円 一括払い又は一ケ年以内の分割払い。

終身会費については、次のようにお願いします。

① 終身会費は、支部の基金を早急に造成し、会の発展のための諸活動を可能にすると共に、毎年の会費の徴収手間を省くなど、会の運営上に寄与するところ大でありますので、出来るだけ終身会費の納入にご協力をお願いします。

② 通常会費を何年か納めて頂いた後に終身会費に切り換えて頂いても結構ですが、その場合の終身会費も一〇、〇〇〇円とし、それまでに納めて頂いた通常会費を割引くことは致しません。

③ 終身会費は会員の方々のご理解を得て、なるべく早い機会にご協力をお願いします。

(有)高岡丑製紙研究所

伊野町菊楽

TEL08889 (2)0373

製紙及製紙機械設計製作

25年機械 高岡正幸

あらゆるスポーツ大会記念に!!



カップ・トロフィー

文字彫り速納
トロフィー・カップ
権・バッジ・優勝旗
銀製品・記念品…… (超大型文字彫り機械有り)

県下唯一の卸し・小売専門店
実績と信用の

(株) サンコウ

25.機 横田 雅範

ゴルフ部・北本町1-5-14 TEL73-1087
(原19西300=南側)

南 事 部・北本町3-8-30 TEL82-3589

高知支部役員名簿

役名	氏名	卒業	勤務先
支部長	清家寛	機一八 械年	清商會
副支部長	田村耕吉	"	県庁財政課
"	広田四郎	"	日産プリンス高知販売機
"	岡林幸保	造二八 船年	今井造船船
會計	柏井秀有	機二一 械年	ドライブショップマルキ
監事	中汲西安男	機二二 械年	東洋電化工業機
"	"	機三二 械年	東洋園芸食品機土佐山田工場

注・理事は、地区並に職域幹事と兼務の方が多いので省略します。

高知支部地区幹事名簿

地区分会名	幹事名	卒業	勤務先
高知市 中央地区	桑名憲二	機二〇 械年	四国銀行本店
"	野瀬正忠	機二六 械年	野瀬建築設計事務所
"	西森正忠	機二六 械年	高知大
高知市 中東地区	野瀬皓二	機三三 学年	高知県経済連
"	清家昭七	機一八 械年	清商家商會
"	村上義栄	機二七 械年	福岡宝石店
高知市 東北地区	広田四郎	機一八 械年	東京電氣機高知出張所
高知市 北地区	梅原務	機二〇 械年	日産プリンス高知販売機

高知支部職域幹事名簿

職域分會名	幹事名	卒業	勤務先
県警高知	田村耕吉 小松章洋 吉村正策 武内昌良	機一八〇年 機二〇〇年 機三〇〇年 機二〇〇年	県庁財政課 県庁建築課 県庁人事課 高知署事故処理センター

高知市北地区	高知市沙江地区	高知市旭・朝倉地区	高知市長浜地区	高知市仁井田地区	南国市地区	土佐市地区	伊野・日高地区
江淵俊明	吉岡豊延	大崎二郎	柏井秀一	竹内良一	岡林幸保	森岡清保	中西安男
機三〇〇年	機二〇〇年	機二〇〇年	機二〇〇年	機二〇〇年	機二〇〇年	機二〇〇年	機二〇〇年
あたご写真館	吉岡電工	村上商店高知出張所	ドライブショップマルキ	御サンライイト機工	須崎市浦の内小学校	高知県造船船	今井造船船
					東園工業高	東園食品土佐山田工場	春野町役場
						矢野青果	高陵青果農協
						大黒屋洋装店	日本紙業(株)高知工場
						高岡丑製紙研究所	

四 国 電 力	鈴 江 農 機	協 和 農 機	高 知 日 産	日 産 サ ニ ー	ト ヨ タ ・ オ ー ト	ト ヨ タ ・ カ ロ ー ラ	高 知 ト ヨ タ	高 知 グ アイ ハ ツ	東 洋 電 化	東 洋 電 化	ミ ロ ク	ミ ロ ク	土 佐 電 鉄	閑 西 土 木	柳 生 建 設	四 国 建 機	新 山 本 造 船	高 知 重 工	高 知 重 工	永 宝 造 船	今 井 造 船	高 新 ・ 高 知 放 送	国 鉄 高 知
字 賀 重 明	細 木 富 男	山 崎 次 男	谷 脇 史 雄	浜 田 伸 夫	箭 野 百 紀	田 村 桂 司	高 橋 義 孝	井 上 健 弘	中 西 安 男	汲 田 信 男	角 西 信 久	浜 崎 圭 男	田 上 助 男	笹 岡 青 行	中 越 野 敦	矢 野 村 論	木 並 洸 吉	安 見 健 一	広 内 幸 保	西 林 耕 作	岡 原 章	黒 原 耕 作	矢 野 文 章
機 一 八 年	機 二 八 年	機 三 四 年	機 四 六 年	機 三 八 年	機 三 六 年	機 三 八 年	機 二 九 年	機 二 七 年	機 三 一 年	機 二 六 年	造 三 〇 年	機 二 七 年	機 二 七 年	機 二 一 年	機 二 〇 年	造 三 二 年	造 三 一 年	造 三 〇 年	造 二 八 年	造 二 八 年	機 二 四 年		
四 国 電 力 高 知 營 業 所	佛 鈴 江 農 機 製 作 所	佛 協 和 農 機	佛 高 知 日 産 自 動 車	佛 日 産 サ ニ ー 高 知	佛 ト ヨ タ ・ オ ー ト 高 知	佛 ト ヨ タ ・ カ ロ ー ラ 高 知	佛 高 知 ト ヨ タ 自 動 車 佛 須 崎 營 業 所	佛 高 知 グ アイ ハ ツ 販 売	佛 東 洋 電 化 工 業 場	佛 東 洋 電 化 工 業	佛 ミ ロ ク 製 作 所	佛 ミ ロ ク 興 産	佛 土 佐 電 氣 鉄 道	佛 閑 西 土 木	佛 柳 生 建 設	佛 四 国 建 機	佛 新 山 本 造 船 所	佛 高 知 重 工 業	佛 高 知 重 工 業	佛 永 宝 造 船	佛 今 井 造 船	佛 高 知 放 送	

高知市役所	敷島紡績	七	東京製鉄	神戶製鋼	高知日立	高知通運	高知大丸	高知果交	土佐市役所	南国バルブ	南海化学	宇治電化学	高知シャープ	高知サンヨー	日本紙業	昭和船舶設計	武田総合設計	電々公社	四国通建	四国電工
加藤美代治	嶋崎孝臣	柳瀬忠勝	武田二郎	前田二郎	和田富夫	和田定次	竹田末弘	黒田弘次	北川秀一	橋本秀一	門田壽一	武村慧一	渡辺嘉彦	西森正忠	大野義男	谷野明	森安則	戸梶忠敏	山西梶雄	大山本勝幸
機五機	機一機	電二機	電三機	電四機	電五機	電六機	電七機	電八機	電九機	電一機	電二機	電三機	電四機	電五機	電六機	電七機	電八機	電九機	電一機	電二機
四国電氣工事(株)佐川営業所	四国通信建設(株)高知支店	高知統制無線中継所	武田総合設計(株)	昭和船舶設計(株)	日本紙業(株)高知工場	高知三洋(株)	高知シャープ電氣(株)	宇治電化学工業(株)	南海化学工業(株)土佐工場	南国バルブ工業(株)	土佐市役所保険課	高知果交通(株)	高知通運(株)伊野支店	高知日立家電(株)	神戶製鋼所	東京製鉄(株)土佐工場	敷島紡績(株)高知工場	高知市役所管財契約課		

発会式も終り、いよいよ懇親会が始まりました。

支部長挨拶がすむと、沢本校長先生の首頭で、母校と同窓会の発展と会員の健康を祈り、加えて高知支部発会を祝して、一同乾杯、続いて宴会が始まり、それぞれの年代、グループで話しの花が咲きました。

話題の中で、特に印象に残ったのは、副支部長の広田先輩がしみじみと言われたことで、『母校も創立三〇年、我々も母校と共に三十年、思えばしんどい三十年じゃったのう。今でこそこうやって同窓会高知支部の発足とかでうまい酒をのめるけれど、これまでは同窓会どころか、自分の口をおぎなうことでせい一ぱいじゃった。やっとうとうか母校のこと、後輩のこと、同窓会のことを思えるだけのゆとりができたということじゃろうのう』と、高知の先輩方も、これまで決して母校や同窓会のことを放っておいたわけではないことが分った一言でした。

閉会時刻の午後九時が近づいた頃、突然舞台上に二人の力士が現われ相撲が始まりました。見ると田辺会長と、川谷先輩で、お二人共開校当時の相撲部員だったとかで、これを仕切っている立行事は、母校相撲部の全盛時代を築き上げ、全国大会優勝のメンバーの一人である中井幸造氏（昭三十三年機卒）です。ハッケヨイ、ヨイ、ノコッタ、ノコッタ、しばらくあって、田辺会長の体力負けで、ちょん／＼になりました。

会場は三々五々、そろ／＼引上げ組？（恐らく二次会組）も出て、半数程になり、時刻も九時、ここで全員が校歌を合唱し、それぞれの思いを残して閉会しました。

同窓会高知支部は、こうして誕生しました。

しかし、これからが大変であります。

母校の膝元でありますし、県外や須崎の支部と十分な連絡をとり合って、今後の発展をはかってゆきたいと思えます。

各支部の役員、幹事の方々はじめ、全国の同窓会員各位の絶大なご支援、ご協力を願って止みません。

最後に、高知支部発会式の写真を掲載します。

高知支部発会式
執行委員一同

和洋酒類全般

酒王



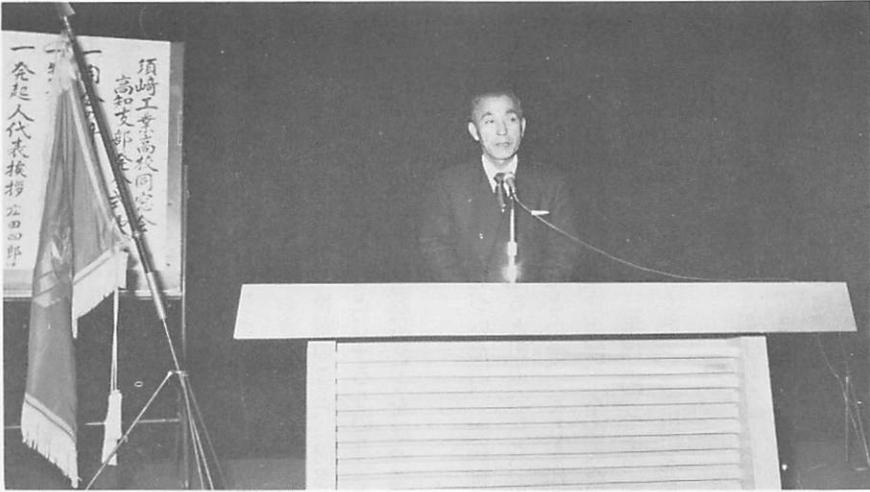
高橋 酒店

22年・機 高橋 繁徳

高知市小倉町 2-14

TEL 82-3096

母学校長 沢本豊先生のご祝辞



同窓会長 田辺博造氏の挨拶

母校先生方の紹介左から
田村、公文、合田、田所、小松の各先生





発起人代表 広田氏
(昭和十八年二種一期)の挨拶

同窓会本部役員の紹介左から
 矢野亀雄副会長(二種一期)
 矢野象一副会長(一種一期)
 田村泰雄本部署務局長(昭和二十七年機卒)
 武森 本部署務局長(昭和三十六年機卒)



会場をうずめた参会者

祝 高知県立須崎工業高等学校 同窓会高知支部発会式



協議進行、議長は左清家、右竹村



選出された高知支部役員の紹介



高知支部発起人の紹介

沢本校長先生を囲んで





新生母校訪問記

昭和二十六年
機械科卒 森岡清

同窓の皆様は、このたび母校が三十年に及ぶ須崎市紉の旧校舎をあとにして、須崎湾の美しい風景を一望のもとに見下ろす大間の高台に誕生した新校舎へ、移転したことをご存知と思います。

その誕生までの関係者のご苦労については、昨年出版された「須崎工業高校創立三十周年記念誌」にくわしく記述されていますが、特に、当事者となられた前校長沢本豊先生は、そのご在任中の全部を、この新校舎建築のために東奔西走、心身共に並々ならぬご苦心をされ本校の歴史に新しい一頁を加えられたことは特筆に価するものと思います。また、記念誌を読ませて頂いたとき、過去三十年間、母校をとりまく多くの善意の人々に対する心からの敬意と感謝の念が湧くのを覚えたのは、一人私のみではなかったと思います。このたび、同窓会高知支部が発足したのも、そうした気持のあらわれではなかったでしょうか。

この高知支部の発足と共に、同窓会の活動も、これまで以上に活潑となり、発展しなければと念じます。さて、前おきが長くなりましたが、本誌の企画で、新しい母校を皆様にご紹介することになり、移転後間もない先日、五月六日に母校を訪問しました。

高知市朝倉からの国道五十六号線を車で約四十分、吾桑の人家を

ぬけて須崎市多の郷に入ると、丁度前方右側の小高い山の中腹に、新校舎の真白い側面が見えてきます。

それはまだ遠いせいでしようか、または周囲があまり広いせいでしようか、巨大であるとか、そびえ立つとかというものではなく、周囲の山並みの緑と、南国特有の空の青色、それらの中程に、ほんとは白い校舎が、美しい色調と、コントラストをもって、しっかりと

と落着いた感じで存在しています。

この感じは、近くにつれてますます強くなりながら、いつの間にか玄関先に着いてしまいました。

私は、丁度十年前に、しばらく母校に勤めていたこともあって、つい、勝手知ったる他人の家とばかり、いや本当は、新築の我が家のような感じで、そのまま校内には入ろうとしました。それは、母校が何となくそうし



母校の東面（右の建物が本館）



機械科1種3期卒
大阪在住有志寄贈の大時計



校舎内部（廊下を中心にして両側に教室と実験室がある）



西側山手から見た母校の全景
（左向うから、本館・南校舎・専門棟・体育館・船体実験棟）

た気軽な感じで訪問できる雰囲気があったためでもあります。

しかし、今日の使命を思い返して、まず、玄関先に立って新築の出来ばえを眺めてみることにしました。

玄関先に立って思わず口をついてでた言葉は、「やあ、立派な学校になったなあ」ということでした。そうです。我が母校は、本当に立派な学校になりました。

本館は、鉄筋の四階建て、続いて、三階建ての南校舎と専門棟、さらにその先には、建築中の二階式屋内体育館と、見事なたたずまいを見せています。

さて、玄関から校舎に入ると正面に立派な大時計があります。これは大阪在住の機械科一種三期生の有志の皆様が、新築記念に寄贈されたものです。玄関から校舎内に入ると、内部はこれまた近代的なビル建築を思わせるような、美しく落ち着いた色調で仕上げられています。

これまでの学校建築では、ほとんどが、校舎の南側に教室、北側に廊下という間取りでしたが、この新校舎は、校舎の中央に廊下が通り、その南側は主に普通教室、北側は実験室や物理、化学等の特別教室が並んだ中廊下式の配置になり、授業と実習が、丁度向い合せの室で行えるという機能的にも優れた配置になっています。

学校全体の配置図と校舎の平面図を次の折り込みにしてありますので、ご参照下さい。また折り込みの裏には本館屋上からの展望を載せてあります。

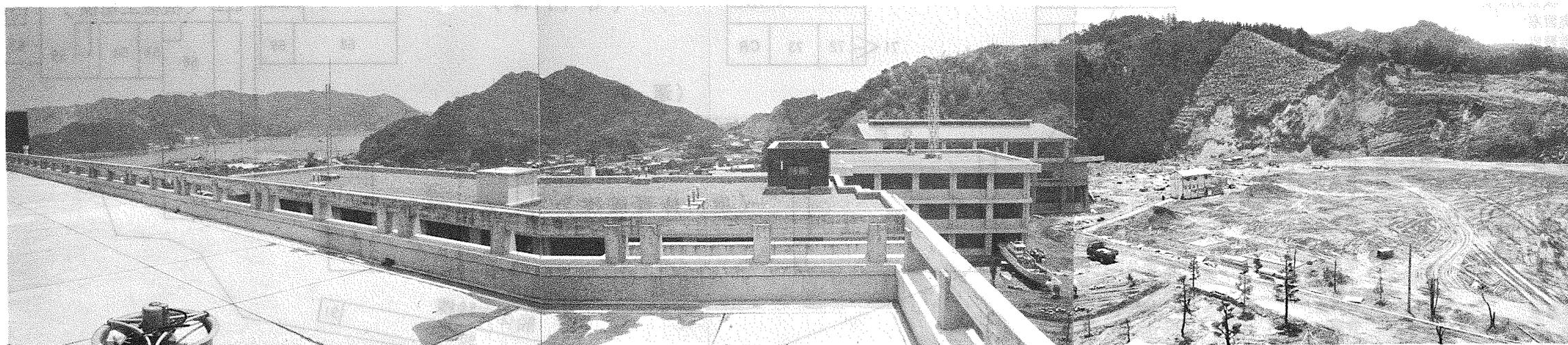
次に、各科の主な施設をご紹介します。

「機械科」

私共が学んだ機械実習工場（昭和二三年（二十六年）は、もうそ

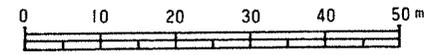


本館屋上からの展望（北東↔南）



本館屋上からの展望（南↔西）

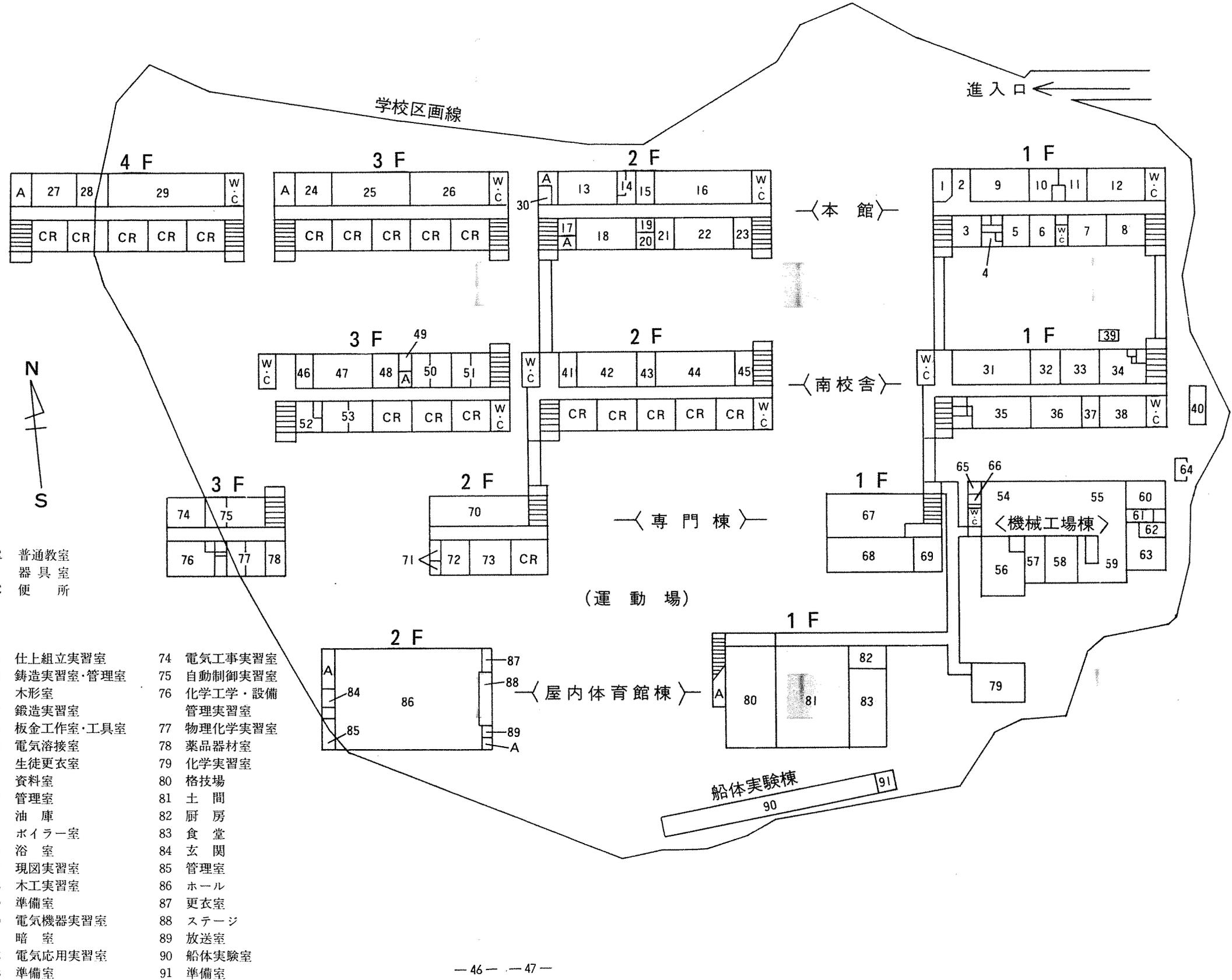
高知県立須崎工業高等学校 配置図・平面図 1:1000

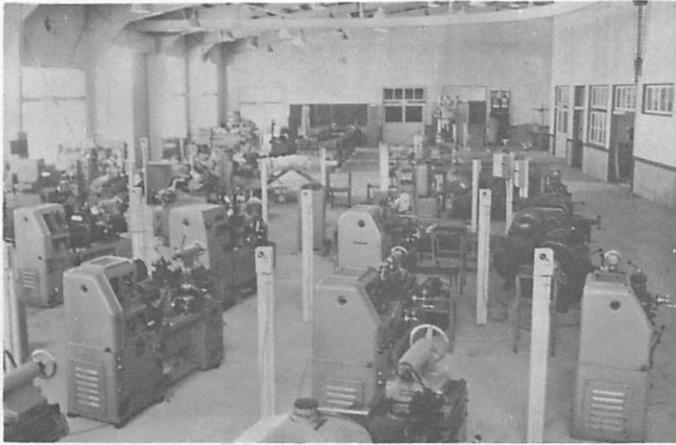


- 1 玄関
- 2 外来応接室
- 3 事務室
- 4 守衛室
- 5 校長室
- 6 応接室
- 7 進路室・会議室
- 8 保健室
- 9 化学教室
- 10 化学準備室
- 11 物理準備室
- 12 物理教室
- 13 視聴覚室
- 14 映写室 準備室
- 15 教材室
- 16 製図室
- 17 相談室
- 18 職員室
- 19 放送室
- 20 印刷室
- 21 司書室
- 22 図書室
- 23 生徒会室
- 24 標本室
- 25 製図室
- 26 製図室
- 27 音楽室
- 28 準備室
- 29 製図室
- 30 暗室
- 31 建造・溶接・板金実習室
- 32 精密工作実習室
- 33 工業計測実習室
- 34 材料試験実習室 (工具室・暗室)
- 35 材料試験・機械・船用機関実習室 レントゲン室・暗室・測定室
- 36 熱機関実習室
- 37 準備室
- 38 流体機械実習室
- 39 劇薬庫
- 40 変電室
- 41 高周波室
- 42 電子工学実習室
- 43 準備室
- 44 電気計測実習室
- 45 電力実習室
- 46 準備室
- 47 化学分析実習室
- 48 天坪室
- 49 暗室
- 50 機器分析室
- 51 工業試験実習室
- 52 準備室
- 53 製造化学実習室
- 54 機械実習室

CR 普通教室
A 器具室
W.C 便所

- 55 仕上組立実習室
- 56 鋳造実習室・管理室
- 57 木形室
- 58 鍛造実習室
- 59 板金工作室・工具室
- 60 電気溶接室
- 61 生徒更衣室
- 62 資料室
- 63 管理室
- 64 油庫
- 65 ボイラー室
- 66 浴室
- 67 現図実習室
- 68 木工実習室
- 69 準備室
- 70 電気機器実習室
- 71 暗室
- 72 電気応用実習室
- 73 準備室
- 74 電気工事実習室
- 75 自動制御実習室
- 76 化学工学・設備管理実習室
- 77 物理化学実習室
- 78 薬品器材室
- 79 化学実習室
- 80 格技場
- 81 土間
- 82 厨房
- 83 食堂
- 84 玄関
- 85 管理室
- 86 ホール
- 87 更衣室
- 88 ステージ
- 89 放送室
- 90 船体実験室
- 91 準備室





新形旋盤のならんだ機械実習工場

ここにはありません。

工場は、総合実習工場となつてすべての設備が一棟の工場内に収容され、旋盤も全機がモーター直結の新形旋盤になり、工場一ぱいに整然と並べられていました。また、天井には、各機械毎といえる程多くの強力な照明灯もつけてあり、夜間実習も可能な程です。

この直結旋盤は、もう数年前に、昔のベルト掛け旋盤と交代した

そうで、私は、あの

糸の工場で、ベルト

の掛換で苦勞したこ

とを思い出し、しば

らく昔をしのびまし

た。

ボール盤、フライ

ス盤、シエーパ等

も、新しい機械が

入り、機械工場は

見違えるような姿で

す。

今となつては、も

う古いものですが、

糸の工場の入口に、

まるで須工機械科の

シンボルのようにな

て、重たい音でよく

働らいていたブレー

運輸大臣認定県下最大工場

四国プラスチック造船株式会社

FRP 船

漁船・特殊船(作業船)・ヨット・ボートの製造・修理

本社 高知市材木町136市原ビル4階 TEL(0888) 83-1875(代表)

工場 高知県須崎市向山 1984-6 TEL(08894) 2-1772(代表)

代表取締役	松	本	文	孝	
専務取締役	前	田	二	郎	(高知支部会員)
取締役	浦	岡	秀	夫	
取締役	木	村	福	一	郎
取締役	三	本	泰	司	(高知支部会員)
取締役	吉	岡	康	幸	(")
取締役	沖	光	雄	雄	(")

ナのは姿は見当りません。あの機械も、とうとう時代の波に流されてしまったのでしょ。私達にとって、学校の帰りに、あの工場の入口で、ゴーンゴロゴロと、なんとなく本当の機械という感じで焼玉エンジンのクランクケースを削っていたあの音は、その横で、大きく足を広げて大きな機械と相撲でもとっているかのようにして運転をしておられた竹内先生と共に、誠に印象深いものがあります。

工場内には、この他、まだ整備中でしたが鋳造、鍛造、板金、溶



船体実験水槽と合田先生



4.5ton級のプラスチック製漁船と建造を指導されている山崎先生

接等の実習室があり、一番奥には管理室があって、ここに機械科の先生方が居られます。先生方は、授業と新工場の整備、さらには、在校生諸君のご指導と、大変な多忙さで、仲々落着いてお話しする時間ありませんでした。ここには、同窓会本部職員として母校出身の島崎良一先生(昭二二・機二)、田村泰雄先生(昭二九・機)、武森幸利先生(昭三五・機)などがおられ、多忙ななかで同窓会の煩雑な仕事をされています。

工場も、やがて整備が終わり、本格的な実習が行なわれることになると思います。私も、その頃になってもう一度訪問してみようと思っています。

「造船科」

造船科には、昔から独特な雰囲気がありました。それは、技術屋と職人気質が同居しているような、といえれば変になりますが、造船技術に対して心身共に打ち込んでいる極めて神聖な研究者としての姿を先生方に感じることができました。造船科卒で、私の親しい友人の中には、高知県内の造船業界を背負っている人達が居ます。またその後輩の人々も含めて、いしかえれば、高知県の造船界は、まさに須工造船科卒で『もっている』といっても決して過言ではなく、その通りであります。(この人達が、高知支部発足に大きな力となりました)

県内だけではなく、日立造船、三井造船等、全国の造船業界で、この須工の同窓の皆さんが、自信と大きな誇りをもって活躍してお

インテリアデザイン

インテルナ

タケゼン

20年機械 竹下俊郎

須崎市東古市町5の8

電話(08894) 2-0258

建築設計・工事監理

野瀬建築設計事務所

一級建築士 所長野瀬 勇

(23年機械科卒)

高知市丸の内28 TEL 72-7994

自己紹介 機械科卒が建築設計の道に入り
23年がすぎました。
ビル計画・住宅建設の時にはひと
言電話下さい。お役に立つことが
あるかも知れません。

電気工事

沖 商 会

20年機械 松本興雄

須崎市原町1丁目8の17

電話 ②0020番

られると聞いています。このことは実に立派なことであり、また尊
いことであると思うのです。そのような造船科の伝統がどこから生
まれたのでしょうか。私にいわせれば、前頁の二枚の写真がその大半
を物語っていると思うのです。上の写真は、ご存知の合田先生と、
船体の性能を調べる「船体性能実験水槽」、そして船体模形の一つ
です。

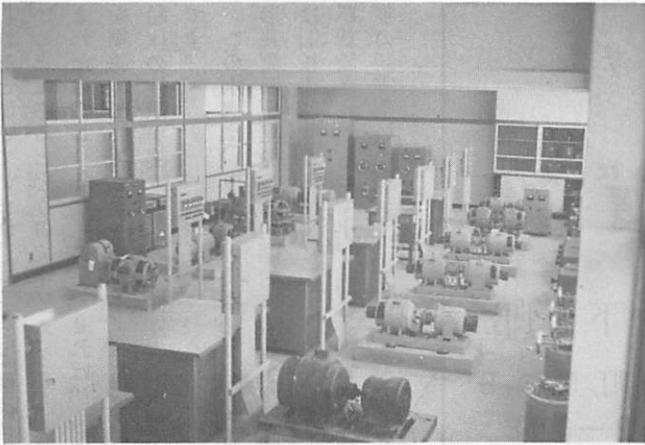
この水槽は、巾二米、長さ三十米、造波装置、船体曳引装置、波
形観測窓を完備した全国的にも数少ない立派なものです。実験水槽
は旧校舎時代からすでに設置されていましたが、移転と共に、再た
び新設されたものです。前の水槽ではすでに五千トン級を含めて十数
隻の新実造船について、その設計過程での水槽実験を行なった経験

もあり、試験結果と実船による公式運転の結果はよく一致してい
ることで、業界からも今後この新水槽によるデータの累積によっ
て、さらに正確な結果を求め得るようになることが期待されていま
す。

もう一つの写真は、山崎吉広先生(昭和三十年造船科卒)と、先
生の指導で、造船クラブの生徒達によって設計建造されている強化
プラスチック製の十二米級漁船(四・五屯)であります。この漁船
は、約二年程前から建造が計画され、新校舎に移ると同時に着工、
五月の連休を利用して一気にここまで造ったとのことでした。写真
で見えている船の外観は、コンクリート打ちの外わくの役目をして
いて、この内側にプラスチック、グラスウール等を積層にした船体

ができているわけで、プラスチックが硬化し、さらに内部の補強を加えて外わくを取り除けば、そこに形通りの船体がお目見えすることになります。

指導の山崎先生の話しによると、「従来の木造船では、材料の性質から、船体曲線の設計に限度があり、船としての効率のよい構造がとれなかったが、この方法では、より自由な曲線を作ることができ、船体設計の面白さがある。」と、本当に楽しそうに語られました。



配備が終った電気器機室

た。ここに母校造船科の意気込みを見るのです。この漁船の建造には、約百万円の費用が必要とのことで、その費用の調達については、山崎先生個人の設計料や、クラブ員のこれまでのアルバイトによる収入が含まれているようで、多くは語ってくれませんが、資金集めは大変なご苦労であったと思います。

私には、造船のことはよく分かりません

が、技術的には「いかに能率のよい船を作るか」に焦点が絞られると思います。少ない馬力で、高い性能をと、日夜研究が続けられていることでしょう。母校の造船科も、水槽などによる基礎的な研究や試験と、実船の建造という両面から、今後ますます高い理想に向かって精進されるよう祈っています。

「電気科」(元電気通信科)

昭和二十八年に設置された電気通信科は十三年後の昭和四十年に「電気科」と名をあらため、今日に到っています。

電気系の学科では、今や情報化時代の全盛で、その方面の技術についての関心が高まっている最中です。

情報技術に関する教育の中心は、何といっても電子計算機で、学校ではその基本的な回路や仕組み(ハードウェア)と、使用するための技術(ソフトウェア)の両面を学習することになりますが、学校という限られた授業時間では仲々思うようにならないという悩みがあります。しかし母校には内地留学で電子計算機を専門に研究された先生もおられますし、全国的にも工業高校での情報技術教育について、内容の検討も進められていますので、近い将来には、電子計算機の設置と共にその教育も充実してくると思います。(現在FACOM・MATEを購入する計画を立案中とのことです)

電気科も、モータやトランスなどを相手にしていた昔とちがって、段々と最新の技術が含まれるようになり、先生も生徒も大変だな、という感じですよ。

母校電気科は、各学年とも二学級編成で、強電系と弱電系の二つのコースに分けてあります。実験室に据え付けられた多数の実習用モータ類も整然と並べられ、弱電コースの備品もよく整備されてい

て各実習ではこれらの実習用備品がふんだんに使用されています。また、高周波実験室にはシールドルームもあり、本格的な電波実験も可能になったといえましょう。

私の同僚に電気通信科時代の卒業生がいますが、彼にいわせると、「昔は、オシログラフはあっても高級品ということで、我々にはなかなかさわらせてもくれなかったが、世の中も変わったよ」とのこと、実習設備が豊富になったことはたしかで、またこの多数ある実験用具をどしどし使って勉強できる後輩は幸せといえます。

この電気科の職員室には、我が同窓会の大蔵大臣である会計係の植田幸子さん（旧姓竹内、三十三年電通科卒）がおられます。一家には主婦がいるように、私達同窓会の主婦ともいえる存在で、財布の紐はかっちりとしてくれています。我が大蔵大臣が女性ということで、同窓会に一たん事が起れば、それこそ鏡の引出しから、これをどうぞとくるのではないか？などと期待なさる向きもあるかも知れませんが。但し世の男性方がウーマンリブなどとおっしゃることを彼女に当てはめることは一寸おひかえ下さい。彼女はいいともひかえ目で、この上なく女性的な美人です。

「化学工業科」

旧校舎の南面に、ビニール波板で屋根を作ったあの象徴的な化学実験室から、新校舎の実験室は一寸想像もつかない程立派になり、すでに各室には実験用のガラス器具や分析用の器機類が並べられ、まるで大学かどこかの研究室のようです。

化学の基本的な実験では、まだ試験管やビーカ、フラスコを使って、ある程度手先の器用さや操作の熟練がものをいう分野もありますが、最近では、公害問題など、にわかに化学の領域が脚光をあ

び、それにつれて、分析法も機器分析の分野が重要になってきています。しかし、この種の分析機器も取り扱いや分析結果の解析については仲々経験を積まなければ、充分使いこなせない面があるようです。母校の機器分析室には、写真のように各種の代表的な分析機器が並び、基本的な取り扱い方や原理を勉強できるようになっています。

公害といえば、有毒物質や内海の酸素含有量が毎日のテレビで取り上げられています。母校化学科の創設当時、たしか須崎湾内の溶存酸

お知らせ

母校新築落成式 30周年記念式

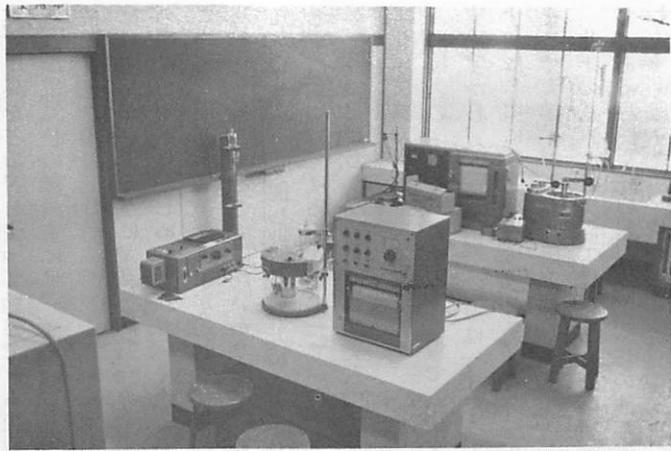
日時 昭和47年11月25日(土)

午前：式典 午後：祝賀会

(会費1,000円程度)

場所 高知県立須崎工業高等学校体育館

お繰合せの上多数ご参加下さい。



機器分析室の一部

素量を化学クラブ員が測定して、その結果を発表したことがあったと思います。海水中の酸素量の測定は、先づ海水を採水することから始まるわけですが、その方法がまずいと、海から実験室に持ち帰るまでに空気中の酸素が溶け込み、不正確なデータしか得られないとかで、海水採水用の容器の考案が研究のポイントであったように覚えて

います。

あの時のデータが今でもあるとすれば、その後、須崎湾の汚染はどうなっているか、一寸興味のある問題です。須崎湾は、まだ海の色を保持し、釣舟の姿もちらほら見えています。湾の奥は工場や人家が多くなり、汚染の要素は増えています。人類の文化を維持する上で、化学がより重要な役割を持つ時代がきていると思います。このほか、天秤室には、むかしの分銅をのせてバランスをとっていた天秤のほかに、新しい直視天秤がずらりと並べられています。

し、全国的にも数少ない放射線実験室もあり、放射性同位元素の化学的取扱いもできるようになっています。

化学の領域も段々と広い分野にわたり、新しい分析の方法や技術が次々と取り入れられ、さらには、分析器機と電子計算機の組合せの問題や、化学工業の自動化など、基礎化学だけでなく応用面も含めた勉強が要求されてきたといえましょう。

「進路指導室」

本館一階には、進路指導室があります。

昭和二十六年以降の卒業生については、どなたも一応この部のお世話になったことと思います。

今年四月には、これまで進路指導部長をされていた竹村先生が教務部長になられたため、代って機械科の広瀬先生が部長を引き受けておられ、引越して運び込まれた各社の入社案内やその他の書類の整理に忙殺されておられました。ほぼ二十年前の頃は、まだ社会情勢も不安定で就職先もなく、その当時進路部長をしておられた田村隆徳先生は、まったく不十分な出張旅費（恐らく出張のたびに旅費は赤字で、不足分はご自分のポケットマネーでまかなっておられたと思います）で、大阪を中心に毎日てく〜と足を棒にしなが卒業生の就職受入先を依頼して廻られていました。その当時就職した卒業生なら、「いいかね、一年や二年で会社を止めて帰ってくるようなことはしたらいかんぞ!!」石の上にも三年ということわざがある。しっかり頑張つて、後輩達のことも見やれるようになってくれ。」と一度は必ず念を押されて卒業し就職していったことと思います。

その後も、各科の先生方を加えて、卒業生の就職ということにつ

いては、しばらくの間本当に真剣な問題として取扱われていました。今年度から部長になられた広瀬先生、昨年までの竹村先生、その前の前田先生（現東工業高校在職）といづれも田村先生と共にそのころから苦勞された先生方です。

今では、進学者も増し、就職といっても、多くの求人がある、生徒さんはあまり心配しなくても、百％就職が可能になってきました。古くから縁のある会社も多く就職は安定しています。ただ求人会社が増したことは、進路部の先生方にとっては、うれしひめいといった所で、もともと忙がしかったこの部は、現在もさらに多忙な毎日であるようです。

「屋内体育館と水泳プール」

さて、最後にご紹介したいのは、現在校地の南部に建築中の屋内体育館と、今後建築が予定されている水泳プールでしょう。



多くの資料が整理されている進路指導室と部長の広瀬先生

特に体育館は、全県でも、須工だけが昔しの講堂があるというところで、建築されなかったこともあって、これからは、体育やクラブの練習についても大変有意義なものといえます。

特にバスケットボールやバレーなど、元来屋内コートで行なう競技では羨望のまゝであっただけに、さぞ満足であろうと思います。また水泳プールについても、もともと須崎は海辺の学校、みがけば光る者もいるであろうと思うだけに、これからの活動に期待したい所です。

扱って、新生母校の訪問記、部外者の私にはまだまだ見落した所も多いと思いますし、また感激のため多少オーバーになった点もあるかも知れません。しかし、立派な姿になった母校を、ありのまま、感じたままご紹介したつもりです。

今後ますます発展してゆくことを祈りながら終りたいと存じます。

（現東工業高校
工業計測科教諭）



完成間近い屋内体育館

詩と隨筆

《詩》

足 摺 岬

大 崎 二 郎

おもえば十数年ぶりであった
俺たちしぶきのかかる磯の道をやみくも走っていった
ほとんどしゃべらず
妻は生れてはじめての足摺岬へ と急ぐ
南西の風 風力四 快晴
淡いけむりのようにかすむ足摺半島が
だんだんいろこくなり
その上に微熱のようになす紫がにじん
不安なかげろうのようにもゆれている
故旧のいのちへ いそぐ

しんよ お前は半白にめをひらき
いっさいの記憶をときしてながながと
今までの疲れをいっきに眠っているようにみえる
はてしなくたゆたう大脳の海に一点血がにじみ
そのいのちはいまだろどろとした
血管の迷路にたち迷っているであろうか
はてしない混濁のやみのなかで

乳色のぶあつい辨気楼がゆれつつづけているのであるか
鼻孔へ酸素を そして腕に冷たいリンゲルの
点滴をおくる細く透明なビニールの管
それはあまりによそよそしくて無心に脈うち
海からの風をときした病室の
面会謝絶の 薄明にひかっている

こんこんとねむりつつづける魂をよびもどすには
もっともっと精緻なものかがないものか
しんよ あまりに唐突な闇にとまどい
出口をさがそうとあせるお前の意識の末梢へ

いま俺の意識の糸をくりのべる
さあ これをつかめ

ふかいその幽明へするするとおりてゆける
竜之介のくもの糸のことをたあいなくも
ひたすらに俺はかんがえているのである

外は五月

病院から海岸にそって岬へつよくかつての道ではなく

緑こいばめ檜や亜熱帯の

おどろの樹海を無尽に切りひらき

みしらぬいっぼんの道路は不遜にも白く光り

足摺半島を海へとこえている

黄色い花粉のようにふりしきる太陽

せりあがってきては空のきわみにとけてゆく

水平線がある

だが道はそこではたとときれ
不意に異郷の場末のような

下卑た彩色の集落に迷いこんでうろたえるのだ
こゝらかつては段々畑で

とうきびや芋がきびしい海の風に勁い根をはっていたが
漠として十余年はしぶきのなかにあり

いま潮騒にのってふきあげてくるものは
あの くそいまいましい文明の警笛ケツの行列だ

俺はいま岬の突端にたつて
ぼうぜんと足摺岬を見失いつづけている

あゝ もう日がしずむ

残りの日がまた一日すくなくなる
しんよ 海の風に吹かれながら

昔ひとまきりの間借りの部屋で
しずかな語り口のお前の

るるたる物語りをきいているような気配につつまれているのだ
今日はせつけた足摺岬の病院で

俺たちおろおろと何の役にもたゝぬ
冷たくひかる一本のビニールの管よりもなお役にはたゝぬのだ
そして

わずか百三十余キロの旅ともいえぬこの一日が
俺達夫婦のもっとも長い旅であったことを

しんよお前がいちばんとがめているようにもおもう
そのまじしく長かった年月のゆえに

大崎二郎第三詩集 近刊

解説 土佐 文雄
装幀 大野 竜夫

豪華箱入版 予定価格 ¥1,000

(申込先) 高知市朝倉宮の前 村上商店

TEL (0888) 44-2245

だまつたまゝしみじみとふりかえっているのである
ゆるせ

すべては須臾に過ぎてゆく
いのちの日のまどろみににいて

刻々ともえひろがってゆく夕焼雲のした
足摺岬は黒々と動かす

俺たち 眼下のふかいしぶきの谷まから
ひらひらと絶壁の空たかく吹きあげられてくる
二羽の黒い揚葉蝶をみているのである

Ⅱ 随 想 Ⅱ

同 窓 会

その運営の難しさと楽しさ

前 校 長 澤 本 豊

自分の出身校を誇りに思い何時までも健在で榮えて欲しいと願う気持は思想や年代を越えて大なり小なり誰もが抱いている人間感情であります。また多感な少年時代を同じ学校で過し同じ授業を受け苦しみや楽しみを分けあいながら育ってきた者同士の間には無言のうちに通じあう何物かがあるもので、これが「同窓生のよさ」というものでありましょう。

同窓会はこうした素朴な人間感情を基調として生れた卒業生の団体であって個人や会自身の利益などを目的としたものではありません。

私の聞く範囲では、高知県の高等学校で同窓会の組織が充実しておるのは高知農業、高知商業、高知工業、安芸高校、中村高校、追手前高校などで、うちはこれらの学校に比べると少し弱いのではないかと思います。

これらの同窓会は何れも会員の親睦や啓発、新旧会員の心の交流などに努めると同時に母校の教育の充実にも協力を惜しんでいないようであります。

学校の教育に対する同窓会の役割は学校の種類やその学校の教育方針などによって多少異なるかも知れませんが、一般的にいつて普通高校よりは職業高校においてその比重が大きいといえましょう。

特に生徒の殆ど全部が卒業と同時に「企業」という社会へ入っていく工業高校や商業高校では先輩が同窓会という組織で繋っておるか否かは後輩の将来に大きな影響を及ぼすものであります。更に学校教育の重要な分野である進路指導の面でも同窓会の組織が確立されておることは極めて好ましいことでありますし、信頼できる同窓会名簿は就職指導のうえで大変有難い資料でもあります。

このような意味でその受け持つ分野は異なりますが、同窓会はPTAと共に学校教育の頼もしい柱であります。もとよりPTAと同じく同窓会は学校の経費を負担する団体であってはなりません。記念事業を計画したり特定の式典に当りそれに相応しい事業を行なうため募金を行なうということなどは従来もその例が多く、出身校を慈しむ麗わしい感情の現われであって何等非難されることはないと思います。

さて同窓会の運営事務ですが、これはどこの同窓会でも出身校に勤めておる同窓の職員が中心となって当っております。一口に同窓会の庶務といっても仲々大変で、名簿の整理だけでも余程気を配っていないとではなりません。学校や先生方に卒業生から来た年賀状や暑中見舞を借りてきて原簿や個人カードを訂正したり、度々進路指導部や教務部と連絡をとったり、あるいは同期の友人や心安い教え子に情報を聞いたり、常に意欲的でなくてはなりません。また神経を使うのは会計の仕事です。さして大きな金額ではありませんが、会の性質が性質だけに記帳、領収書の処理など、細心の注意を払って、その都度すませておかないと過失なき信を失なうことにもなります。一度会員からこの点を信を失えば会としては正に致命的であります。……この点うちは従来其大変よく聞いておりますが、

当事者の気苦労は大変だろうとお察しします……。更に会報の発行や記念事業でもやれば係の人の忙しさと気苦労は夥しく余程周囲の人々の理解と協力が無い限りとても二人や三人で処理できることではありません。

誠に縁の下の力持ち、うまくいって当り前、善意に基づく失敗でも失敗は失敗で非難を受けることさえあります。物質面の報酬は何ひとつなく、全く割の悪い仕事ですが、これを引受けてくれる物好きがいけないことには同窓会はなりたない。ここに同窓会の本来的な弱さと運営の難しさがあります。

前にも述べたように同窓会が学校の教育に大切な役割を果している以上、学校としても十分な理解をもって、その運営に援助を惜しまないことだろうと思います。学校では今年の校務分掌の中に同窓会の係を位置づけたそうですが、これはその配慮に基づき措置であろうと思います。

私は高知工業の出身で二八年から四一年に須崎工業へ来るまでの一三年間母校に勤めその間同窓会のお手伝をしました。三十七年が高知工業の創立五〇周年で同窓会ではその記念事業として図書館兼同窓会館を建築することになり、その資金七〇〇万円のうち五〇〇万円を同窓生から募金することになりました。そのため度々会議を開いたり同窓生が沢山勤めておる職場へ出向いてはPRに努めたりしたことでしたが、その頃のある時、さる職場であった話です。こんな発言がありました。

「自分はいかにも高知工業の出身だが今の仕事は工業とは全く関係がない。技術のことにも関係していないし学校で習ったことは何ひとついま役立っていない。従って学校に恩はないし寄付などする

理由はない」……何分にも一万人近い同窓生のことです。計画に不賛成の人のあることは当然ですが、これには全く恐れ入りました。非道い理屈もあったもんだとただあきれたことでした。当人がそこへ就職する時の履歴書には当然高知工業卒と書いた筈です。技術に関することは一応大目に見るとしても国語や数学、英語や理科……など当然役立っている筈ですがそういった個々の知識よりも高知工業で過ごした五年間のすべてのものが、その人の人間形成の土壌になっておる筈です。計画に

製材・木材・梶原町林材KK社長
木材・土地・西南産業KK専務

中 平 万 年

(18年機械卒)

中土佐町久礼TEL2950番

土佐特産林業用打刃物製造販売
一般用鋼材

細川栄三商店

中土佐町上の加江

TEL(088954)33

二種一期卒 細川稀男

不賛成なら不賛成、寄付が厭なら厭でハッキリそう云えばよいわけで、この屁理屈には腹が立つより情ない思をしたことでした。

役員の方々が智慧を絞り総会で可決された計画であつても凡ての人から賛成され支持を受けることは難しいと思います。人それごとく考え方が違う以上、これは仕方のないことです。ただ同窓会が出身校を同じくする人人の心の繋りて生れたものである以上、そこには余り難しい理論や屁理屈は欲しくないものです。

同窓会本来の目的である会員の親睦や新旧会員の心の交流などを深めていこうとすれば当然会報の発行ということになりますが、この度はじめて会報らしい会報が発行されるに至ったことは須工同窓会としては誠に画期的な快挙であり本当にご同慶にたえません。

然しこの会報にしても原稿の依頼、広告の集収、整理や編集、印刷校正、配布や郵送、更に経費の調達など役員の方々のご苦勞は並大抵ではなく、とても欲得でできることはありません。

この会報の原動力ともなった同窓会高知支部の結成大会は三月十六日に挙行されましたが、別項のとおり二〇〇人を越す会員が出席され盛大を極めました。ことをここまで運ばれた清家氏はもとより清家氏を中心とする発起人の方々のご熱意と苦勞にはただ頭が下るばかりです。

当日、これらの方々のご感興はどうであつたでしょう。恐らくは「俺達もやるだけやつた」という満足感と「忙しいのによく集つてくれた、有難い」という感謝の気持、ただこの二つだけではなかつたかと思ひます。

それ以上何も与えることができない、それ以上何も期待しない。それが同窓会の姿であり、そこに同窓会運営の楽しさがあるのでは

ないかと思ひます。

四五年には岡林、春田両氏の大変なご尽力で中京支部が結成されました。今回の高知支部を加え支部の数は東京、中京、大阪、高知の四つとなりますが、地元須崎でも支部結成の計画がたてられ、八月中旬に結成大会を開くべく準備がすすめられておるとのこととであります。

近く誕生せんとする須崎を加えこれら五つの支部が堅実な発展を続けられますように、またそれに伴つて須工同窓会が大きく成長されますようお祈りすると共に会員各員のご健康とご多幸をお祈り申しあげてペンを擱きます。

食品包装資材 三栄産業

代表者 北川良輔
(23年機械科卒)

高知市東雲町4の6 TEL 82-8455
(0888)82-8456

竹下写真館

高知県 竹下増秀
営業写真家

(20年機械)

須崎市東古市町4の23
TEL ②0066番
高岡郡梶原町横町
TEL (梶原) 162番

梶原支店

思い出話

懐しい紅顔の頃



十八年卒・二種一期
矢野亀雄

(一) 勤勞奉仕(失敗の巻)

母校須崎工業高校も創立三十周年を迎へ大間の丘陵には新校舎の偉容が朝日に輝いている。三十年このかた世の中のおわただしい移り変りと共に学窓時代を想ひ浮べると懐しい郷愁の念にうたれてくる。

其の頃学校は授業の他に食糧増産の為色々の作業があった。丁度気候は今頃、昭和十七年麦秋の頃、中間試験の発表があり、早うむくらにやいかんと気ばかりあせていた。天気も降ったり、止んだり、まことにうとうとらしい田圃の麦の穂もじゅ／＼してさかりかけている。急に日が照り青空が見えて来た。すると「日和が良くなったので試験は中止、これから上分へ麦刈りの奉仕に行く」と命令が出た。「ヤッター」、一人の友人が飛上った。勿論私も手をたいた。約一週間吾々のクラスは毎日麦飯の弁当を腰に新莊川にそい

歩いて行った。主に出征兵士の留守宅の麦を刈り家族の人々から感謝された。その作業も一応終り、クラス一同近くの加茂神社の境内へ集った。そこへ村長さんと農業会長さんが来られ一人は戦闘帽にゲートル巻、もう一人はその時分珍らしい長髪とセルの着物に下駄ばきの格好で、慰勞の挨拶をしてくれる事になった。吾々は二列横隊に並び、先づ国民服のオンチャンが中央に立った。級長の武村君(現清家寛君)が「頭——中」の号令をかけた。生徒は中央の人に注目、見事な挙手の礼でこたえてくれた。そして暖かい感謝の言葉が述べられた。次に着物と下駄ばきのオンチャンである。その時すでに私の胸におかしさ一杯こみ上げていた。一種の予感である。そのオンチャンは先に頭を下げおじぎをした。級長はあわてて後から「頭——中」……私は目をつぶったまま注目した。しかし目の開けようが早かった。そのオンチャンは着物、下駄ばき、ノーハットのまま挙手の礼をしていた(註、帽子をかぶらない時は挙手の礼はしなかったものである)その時息をこらへ胸につめこんでいたおかしさが一度に吹き出した。私の前にいた橋本忠行君、下村晴宏君、それに病死した中谷君が続いて笑った。

一度に終了式のムードはこわれた……。 「矢野お前は残れ」旋盤の西原先生のゲンコツが飛んで来た。気が張っていたのか少しも痛くなかった。友人は皆帰って行った。「何がそんなにオカシケリヤ」とさん／＼お説教をくった。数時間後大いに反省し一人で淋しく帰路についた。道々俺はどうしてこんなに笑うだろう、先方へ随分と失礼になっただけか。もう決して笑わないと決心した……。しかしあの手を挙げた瞬間を思い出し亦笑ってしまった。今はよく車で加茂神社の前を通って行く。その都度三十年昔を思い出し頭を下げ目礼して行く。その時のオジサンどうかどうか許して下さい……と。

(二) 戦闘教練

吾々の学徒時代週に三、四時間教練の時間があった。県立の中学校には配属将校といつて高知の西部三四部隊から現役の将校が配属されていた。確か福本中尉だったと記憶している。その下に教練の教官で日支事変で名誉の負傷をされていた中土佐町久礼の山本泉準尉がいた。流石に弾の中をくぐり実戦を体験された人だけあって、その名指導ぶりには定評があった。各個教練や行進の時分は未だ良かったが、上級生になり小隊の戦闘教練をやる時分は随分と面白く亦張切っていた。銃

をかつぎ帯剣し富士ヶ浜迄行進し新莊川口迄
戦闘教練が始まるともう無我夢中であつた。

「二番の位置この位置散れ」の号令がかかると、傘形散開である。二番の左側に一番、右側に三番と四番、二番の後に五、六、七番とあとについて行く。突撃の前になると五、六、七は横へ前進し横隊になる。その間に銃口へ着剣突撃の号令が掛ると共に「ウオー」と大声をかけ仮装の敵陣へ突込んで行った。

卒業の年査閲といつて教練の成績発表会の様なものがあり、高知の連隊から査閲官が来られた。確か馬に乗つていたと思う。

この査閲の成績如何は吾々が卒業し幹部候補生の試験を受けるのに非常に影響するとかで校長始め全校一同物凄く張切つていた。各校ではその土地の特徴のある、いわゆる十八番の出し物があるとかで須崎工業は戦闘教練「敵前上陸」を敢行した。丁度私は剣道をやつていた關係で四人に選ばれ査閲官の前で銃剣術の仕合を見てもらつた。わづか数分の間であつたが全身汗びっしょりになり思い切りかかつて行つたものだ。その關係で吾々は敵前上陸には帽子に白帯を巻いて敵側にまはり葉囊に空砲をどっさりもらい富士ヶ浜の堤防の上に陣取つた。クラスの友人達は擬装網をかぶり銃を持ちもの／＼しい軍装で小船に乗

込み、高バエの沖迄漕いで行つた。

ラッパの合図と共に状況開始、船体は一列になつて陸の方へ漕ぎ寄せて来た。途中白煙筒が焚かれ煙幕がはられた。その間に船は横になりバリバリバリ打つて来た。ダダダ……ダダダと軽機関銃の音もする。吾々の敵も之にまげず打つて打つて打ちまくつた。完全武装をした友人達は海に飛び込み銃を水に濡らさない様片手に上げ泳ぎ乍ら丘へ陸地へ、実戦さながらであつた。突撃ラッパと共に相方共突進して状況は終つた。

校庭に帰りファンファールの分列行進。

中内校長の振る指揮刀のもと山中幸樹君、三木君（二種二期・宿毛出身）達の奏でる行進ラッパの音と共に一糸みだれぬ行進は圧巻であつた。

査閲の結果の批評では「おおむね良好」であつた様に思う。その後幸に私は兵役をまぬがれたが多くの友人は卒業し若しくは途中から大東亜戦争に参加した。祖国の勝利を信じ遠い異国の空に若くして散つて行つた友人に心から哀悼の意を表しご冥福を祈りたい。そして何時迄も戦いのない平和な日が続くことを祈つて止まない。

(三) ビートルズと私

この三月下旬、同業者の米屋連中と九州旅

行へ行つた。フェリーの中で輪になつて一杯やつていると、イタヅラをする奴がいつの間にか写真をとつていた。後であつて者の私は自分が居ないので「この人は誰なら」と言つたら、之は「オマンゼよ」と言つた。自分も毛が薄くなり鏡を見ては前の方をなでていたものだ。しかし後が、こんなに無いのは思いもよらず、地が出かかつている。こんなになるならもつと早う舶来の薬でもつけたら良かったと残念でたまらない。しかし、この戦中派の好青年も終戦と共に長髪になり、櫛で髪を前へかくと下アゴの所迄きたものだ。これに、あの頃よく売つていた「アメリカカンブリヤン」と云うニオイの良いポマードをつけ、これを七、三もしくは四分六に分け両方の横毛を後にかくと後で重なり、いわゆるリイゼント・スタイル、洒落男と云う、今はなきエノケンさんの歌つた「俺は村中で一番モボだと言われた男」ではないが、紺の背広にエンジのネクタイをしめ、未だ物資はない時分乍ら、しゃれていた。

最近母校の息子達は長髪で靴の後をふみつけズボンのスソを広く左右に振り乍ら歩いてゐる。東京の神田では散髪屋が営業出来なくなり多くの業者が転業した様に聞いている。いくら流行とは云えなんとならないものだ

ろうか？ この間も凸山君が、長いほこった様な頭で前を通っていたので「オイ凸山君」「西内のオンチャン（註、散髪屋）が僕を尋ね廻りよった」と言っちゃった。「何の用事じゃろうか」と、とぼけていたので「バリカンを持って走り廻りよった」と言ったら……しばらくして「オンチャン、わやにしなや」と言った。私にも中学二年になる男の子がいる。ぼつ／＼ハイカラを覚え、Gパンをはき、広いベルトをしめている。頭は学校で決められているので、ほんでも丸坊頭、息子によく云ってやる。「オンシャ高校になって余り頭の毛を延しよってんや、こっそりスイミン薬を飲ましちよいて、夜中に、バツサリつんでしもうちやらあや」と。

この間母校旧校舎の最後の卒業式に出席させて貰い、その中で送辞や答辞を読んだ息子達は中々さっぱりとした、きれいな頭をしていた。捨てたもんじゃないと大変嬉しかった。

どうか息子達諸君よ、ハゲ頭のオンチャンのひがみで言うことで気には入らぬだろうが、ていさい良く下をもっと刈上げて、床屋をどうか、ごひいきにしてやって下さい。

(同窓会副会長)

米穀販売。こうじ製造。精米関係機械

矢野米穀店

須崎市新町一丁目

TEL ②0243

二種一期卒 矢野亀雄

同窓だより

一陸会発足の日

昭和一八年
機械科二種卒

竹村昌孝

「おう」「やあ」「どうぞよ」つぎつぎとこんな短い言葉が飛び出す。

これで全て以心伝心である。所は、手結の海風荘、潮騒が窓辺をかすめ、潮の香が暮色を運んでくる四月二十八日のたそがれ時である。

わたしたち一期生は、ここで久方振りの同期会を開こうというわけである。

わたしたちは、比較的同期的連帯意識が強く、これまでも、幾度か同期会を持ってきた。野外にキャンプをはったこともあるし、床がぬける程の馬鹿騒ぎをやったこともあるし、山峡の山荘で静かに一夜を飲み明かしたこともあったが、この度の集まりは、従来とはいささか趣を異にしていた。

それは、須工同窓会高知支部の盛大な発足を契機として、こちらで俺達がまとまらんことには格好がつくまいとばかりに大いにハッスルをしたのである。

皆んなの心の中に、組織的な活動体をつくりたいという気持が潜在していたのが刺激を受けたとみられるのである。

従って当初の参加人数は全県下殆ど全員で二十名もあった。しかし当日になり仕事の都合がつかず止むを得ず不参加を余儀なくされた者が七名もあり、結局十三名に、恩師田村隆徳先生をおむかえして十四名となった。

それでも二けたの参加者があったのは今までにないことで盛会だったといわなければならぬであろう。

今度の会を持つもう一つの動機に、級友の

坂本忠男君の歓迎会ということもある。

彼は長い県外生活から今春高知へもどってきたのである。(彼は陸上自衛隊の陸佐殿である)

さて、会場はすっかり夜のどばりに閉ざされた。宴席についた面々、お互に昔の面影は残っているものの、頭に霜をいだいた者、腹がせり出してきた者等、三十年の時の流れをひしひしと感じさせる面々であった。

飲む程に、懐古談議に花が咲き、タイムマシンで三十年昔に逆もどりをした感じがした。中には「吾青春に悔あり。」とばかり、当時の体制の古さに憤まんやる方ないほやきをする者もいたり、トン、シー、ナン、ペイに興ずる者もいたり、酒が話を呼び、話が酒を呼び果てることがなかった。

一夜が明けた。

これを機会に、この会の命名とあいなった次第。宿酔の頭にしては、なかなかよい名前がつぎつぎと出された。

一心会、一睦会、歯車の会からモジュールはては、だんご会まで飛び出してきたが衆議一決一睦会と命名された。

字の如く一つに睦合う一期生というわけである。

まさに二十九年振りの産声である。メンバーはすこぶるバラエティーに富んでいる。自家営業から、会社員、公務員から教員まで、筆者を除けば、みんな一流の中年男である。

一睦会発足を契機に、益々お互の連帯を深めながら、須工同窓会の一歯車として益々仕事に情熱をもやし健斗するであろうことを期待し合いながら散会をした。

わたしは外に出て潮の香を一ぱい吸いこんで大きく深呼吸をした。来年の集いを思いながらハンドルを握った。青春にかえったように車も心も軽やかにはずんだ。

四月二十九日の朝、空は見事な五月晴れだった。

(浦ノ内小学校教諭)



田村先生を囲んだ「一睦会」の面々

再 会

二五年 機械科卒 竹内良一

高知支部発会式のときから、クラスの者同志で一度献立やとぼつぼつ声が出て居た折、日立プラント勤務の西森君(大阪支部)が帰省したこともあって、急拠四月二十八日柳町湖月二階で(場所柄二次会に便利?)二十五年機械高知支部の者が集合しました。不思議に?定時に皆集まり、あっち、こっちでオウ〜と云う声が聞かれ、中には卒業以来二十数年ぶりに再会した者もあり、一同感激のうちにアルコールもまわり、糺町の旧校舎がなくなることは、一抹の感があるとか、下級生のペントウのオカズを授業中に失敬した話、旧校舎焼失の時は、夏休みを利用して、復旧資金の一部に石鹼や、トイレットペーパー等売りに行った事、戦時中は運動場の半分はいも畑に、半分は防空壕作りに汗を流した話、又米軍に機銃掃射を受けた話など、昔話に花を咲かせ、しまいにはオンシがオラがと頭の白い物や、アルコールの話になり、ご多聞にたがわず二次会、三次会と脱落者もなく、ハシゴになりましたが、(その都度割勘

徴収)年に二・三回は集まって、親睦をはかり、同窓会発展のために、協力することを誓って散会した事でした。

それ以後、電話で、ハガキで、皆忘れかけていた友情が、深くなってゆくようです。

この写真は、三〇年電通卒の江湖君(あたご写真館)に無理をいって撮ってもらったものです。
(有)サンライト機工社長

有限会社 サンライト機工

棧橋通4丁目7番1号
TEL(82)2003

遊戯機械 = 企画・設計・製作・委託・販売
特殊機械

営業所

ショッピングプラザ帯屋町店屋上
ショッピングプラザ大橋通り店屋上

25年機械 竹内良一



昭和25年卒生の再会 西森君(大阪支部)帰省を機に急に話が込み高知支部の全員集合となりました。

第3の道路

十八年十二月
機械科卒 清家 寛

最近サイクリングと自転車が、大きく脚光を浴びて来ました。

事実、通勤、通学、お買物やサイクリングなどに自転車が多く使われるようになってきました。

欧米の諸国では、大人用の軽量スポーツ車の需要が急速に伸びており、特にアメリカではこの車種の要望が多いと聞いております。

アメリカやヨーロッパの諸国では、自転車道路がつくられはじめてから、五十年になります。

わが国は、昭和四十五年四月、自転車道路の整備等に関する法律が公布施行せられ、漸くにして自転車道路の建設が、全国的に進められるようになりました。——これが第3の道路です。

△第3の道路Vは歩行者、自転車が、安全に通行できる道です。

速いくるまど、遅いくるまが、おなじ車道を走ることは、その両方にとって、迷惑なこ

とです。交通効率が悪くなるばかりでなく、いたましい事故の原因になります。

速いくるま自動車と、遅いくるま自転車とは、別々な道路を走るべきです。

さいきんになってわが国も、自転車道をつくろうとする気運が起きてきましたが、まだ黎明期にすぎません。(自転車道路建設促進協議会)

全国自転車道路網の構想は総延長二五、三〇Kmです。(現在の自転車道の総延長一、四二〇Km) 遠大な計画が立てられております。

政府もいよいよ本腰を入れて、「国民の心身の健全な発達のために」自転車道の建設にとりかかりました。

高知県に於ても各所で自転車道の建設が進められております。

サイクリングの前途にも漸く明るさが見えて来ました。

△第3の道路Vが一日も早くより多く建設されることを望んでやみません。

(高知支部支部長

株式会社 清家商会専務)

自転車・子供車・幼児のりもの

☎ ツバメ自転車

■ カワムラサイクル

● 山口ベニー自転車

株式会社 清家商会

18年 機 専務 清家 寛

28年 機 武村 光雄

はりまや町3-11-25 TEL 82-7155

宝 石

二十七年
機械科卒 福 岡 昭 七

女性はだれでも宝石がほしい

宝石というものは、女性は男性に買ってもらうものでなければおもしろくない。父親とか、夫とか、婚約者とかから、愛情と共に贈られてこそ、持つ意味もあり、倅せもあると云うふうに考えるから……。

いざ婚約や結納と云う段になって、どんなふうにしたらよいかと相談を受けると、予算のたくさんある人には、結納金と指輪を、予算の少ない人には、結納金を少し減らしても、指輪をつけてあげたらとすすめる。

指輪とぎくと、即ち宝石、貴金属と反射的に思うせいか、どきんとする男性もいる。宝石というものを贅沢なものだけ考えないでほしい。もしそれが、婚約の印に贈られたものだったら、どんなに嬉しいかわからないのだ。

宝石はいつまでもかわらない。着物や洋服と違って、いくつになっても身につけられる。いつも身近に置ける。それに美しくして、

婚約の記念にこれ以上ふさわしいものはない。

宝石オンチの日本の男性

日本の男性は、宝石などというものは、お金の使い途がなくて困っている金持以外には、用のないものだ、思いこんでいて、自分のゴルフの入会金に何十万ものお金を使う余裕があっても、糟糠の妻には、指輪を贈ることを思いつかない男性が、多いのは全く残念なことだ。若い妻には、指輪なんて、虚栄心を満足させるだけだといひ、年を取った妻には、指輪なんてはめる柄ではありませんよという。ほんとうに始末が悪い。

宝石と財産性

最近新しく、財産四分法が登場して来た。欧米では、ダイヤモンドなどの宝石を加えた、財産四分法は、すでに常識化されているが、我が国でも最近これを行なう人がふえて来たようだ。

宝石といっても、財産性の豊かなものとなると限られ、ダイヤモンドを筆頭に、エメラルド、ルビー、サファイア、アレキサンドライト、キヤツ、アイなどが、その面で優れて



高知チケット歓迎



永遠の輝きを貴女に……

宝石鑑別士のいる店

日本看護協会看護婦会高知県支部) 指定店
日本看護連盟高知県支部)

ふくおか宝石店

27年機械 福岡昭七

高知市なかたね TEL83-4701

いるといえるだろう。

財産保全という意味からいっただら、宝石は捨てがたい魅力がある。利殖で少なくとも、損をしないと云う財産保全のために、宝石を使うなら、まさにこれは効果的です。

先刻ご承知の通り、今や国際経済は通貨不安時代、通貨を超越した価値があるものとして、高価な宝石がクローズアップされてきた。
(福岡宝石店主)

写真についての

アドバイス

三〇年三月
電気科卒 江 淵 俊 明

日常生活に写真をとり入れましょう。

これから写真を始める方、また二台目のカメラを物色している方とおありと思います。

その場合、実用派か趣味派に分けると、

実用派 II カメラ・レンズ固定式の普及、中

級カメラ (一万円〜三万円)

趣味派 II 一眼レフカメラ・レンズ交換式の

中級、高級カメラ (四万円〜一〇万円)

をお選び下さい。お買いになったら、カメラ

の説明書をよく読んでから使用して下さい。

一年に一回は必ず写真店で点検するようにお勧めします。レンズ曇り、ホコリはついてないか、水銀電池が十分働いているか、二〜三回シャッターを切って見る。そしてフィルムに、普通ASA一〇〇(感度)が使用されていますが、室内、夕景、夜景のスナップなど、高速シャッターが必要な、動きの速い被写体の撮影には、ASA二〇〇、四〇〇等の高感度フィルムを使用して下さい。

フィルムの取扱いは、なるべく直射日光は避けて下さい。カメラに装填されたフィルムは、出来るだけ短期間に撮影し、現像にお出し下さい。長期間おくと、プリントの出来は、コントラストの弱い、ねむい写真になり、カラーフィルムの場合には特に色のバランスがくずれ、良い色が望めない結果になります。室内撮影の場合は、ストロボ使用がよい。ストロボに指示されている、ASAのガイドナンバーを撮影距離(被写体からストロボまでの距離)で割り、絞り値を決めて撮影して下さい。

またフィルムの外箱には使用期限が記入されています。フィルムの使用期限までに、現像に出して下さい。

出張撮影・商業写真・カメラ及び材料販売
早くて美しいカラープリント

あ た ご 写 真 館 中 の 橋 フ ォ ー ト

高知市大川筋2丁目2-44 TEL75-2962
(愛宕大通り南詰)

(30年・電気) 江 淵 俊 明

フィルム及びカメラの保管は、乾燥した涼しい場所に保管すること、フィルム、カメラは湿度や有毒ガスの影響を受け易い。また一般家具や新建材に用いられている接着剤から

のフォルマリンガスが発生するから、家具にも注意して下さい。

撮影したフィルムや引伸した写真は出来るだけ早く、アルバムに整理しておこう。沢山溜ってからは面倒です。

カメラを大事に扱ってこそ、傑作が撮れるのです。

最近手軽に写せるカメラが沢山あります。日常生活にもっと、写真をとり入れて戴きたいものです。

営業写真家協会会員

あたご写真館 店主



味の古里・

心の古里高知

昭和三年
機械科卒 吉岡伊助

目に青葉、山ほととぎす初鰹、ご存知鰹のたときは、全国的に有名な土佐自慢の料理、これだけ書けば、舌もほろろとニンニクの

味!! 鰹は回遊魚であり、黒潮に乗って、土佐沖から山陸沖に移動する。

この魚、他の魚にないイノシン酸と言う、独特の酸を持ち、甘味の秘訣とか申されます。丁度四、五月の土佐沖で獲れるものが、油の乗り具合が手頃で、タタキ及び鰹節に使用するのに最適とか、その他母校の所在地須崎では、ハマチの養殖も盛んに行なわれ、全国に出荷されています。

鰹、鯖、鯛、キス等数え切れない、生きのいい魚が沢山陸揚げされ、土佐で皿鉢に盛られ、或は津々浦々の食卓を賑わしている事でしょう。その他貝類、野菜類も豊富であるのは、比較的公害の少ない土佐の特権でしょうか?

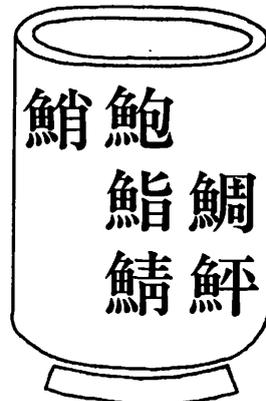
目を清流に移せば、新莊川、仁淀川、四万十川で待望のアユ漁の解禁と話題は、豊富です。山の幸、海の幸、書き尽せない程あります。唯残念な事に、高知にはマグロの漁船の基地(室戸)がありながら、ほとんど中央に陸揚げされています。これも、市場の小さい悲しさで申せ残念なことですが、文字通りアルコール消費量全国ナンバー一にふさわしい新鮮な味の宝庫と申せましょう。生れ故郷を何んで忘れてなるものか、もう一度童心に帰

って、二人で遊んだあの山河を思い出し、鋭気を養ってお互に頑張りたいものですね。乱筆ながら……………。

(天龍寿し 店主)

本場の味 寿し天龍

高知市中島町福社会館隣り
電話(75)5863
昭32.(機) 吉岡伊助



事務局だより

ごあいさつ

同窓会事務局一同

このたび、同窓会の会報「にしきうら」を発行し、皆様のお手許にお送りすることになりました。

これまで、同窓会本部としましては、毎年の創立記念日に在校生に対する記念事業として、会長さんのあいさつや、記念まんじゅうの配布、その他、いくつかの事業を行なってきましたが、すで



同窓会事務局のメンバー前列左から【中川浄(34:機)・武森幸利(35:機)・田村泰雄(29:機)・津野隆(41:造)】後列左から【山崎吉広(33:造)・竹崎貞男(43:機)・島崎良一(22:機)・植田(竹内)幸子(32:電)】の皆さん

に卒業された会員各位との交流はほとんどなく、誠に残念な状態が続いております。

しかし、創立三十周年を契機として、これではいけないということから、前校長沢本先生の強力なご指導と、すでに存在している各地の支部をモデルとして、高知市や須崎市を中心とする地元の同窓の方々が、支部を結成され、本部事務局も全面的な援助を頂けるようになり、そのご協力によって本誌が完成致しました。

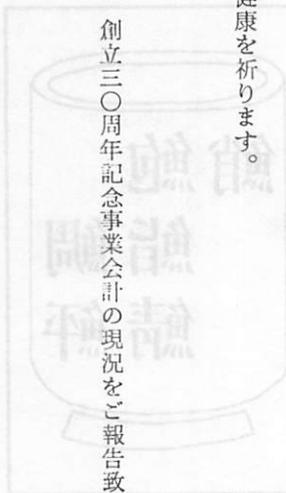
今後は、この会報を毎年発行して、これを通じて全国の会員の皆様とのつながりを密にし、共に母校発展のため意を尽したいと考えています。

会員各位におかれましても、どうか宜しくご協力下さるようお願い致します。

皆様のご活躍とご健康を祈ります。

尚、次に

同窓会会計および、創立三〇周年記念事業会計の現況をご報告致します。



同窓会会計現況報告

(昭和46年度)

	費 目	金 額	摘 要
収 入	繰越金	83,731	
	同窓会費	93,915	新入生(7,200) 卒業生(21,915)
	44年度名簿代金	129,800	
	利 息	2,280	
	雑収入	240	
	合 計	309,966	
支 出	卒業記念品費	26,075	
	開校記念品費	83,180	
	印 刷 費	31,280	
	郵送通信費	5,612	
	会 議 費	11,000	
	旅 費	36,540	
	事 務 費	1,330	
	名簿整理費	19,520	
	備 品 費	29,000	
	慶 弔 費	42,820	
	雑 費	1,800	
	合 計	288,157	
	差 引 残 高	21,809	

(金銭出納帳より転記)

創立30周年記念事業 会計現況報告

(昭和47年6月2日現在)

費 目		金 額	摘 要
収 入	借 入 金	100,000	P T Aより事業資金として
	記念誌協賛金	1,314,345	
	利 息	6,277	
	合 計	1,420,622	
支 出	印 刷 費	944,550	記念誌、名簿等
	郵 送 通 信 費	145,730	記念誌、領収証郵送
	会 議 費	440	
	旅 費	58,060	県外支部会出席
	事 務 費	33,915	中京支部へ、事務連絡、諸経費
	慶 弔 費	15,500	県外支部結成祝金
	雑 費	10,999	写真フィルム、焼付、複製等
	合 計	1,209,194	
差 引 残 高		211,428	

各種証明書の発行について

母 校 事 務 室

各種証明書のご入用の際には次の要領で、学校事務室宛に申込んで下さい。

一、申込み記載事項

(イ) 卒業の年月と科別

(ロ) 氏名と生年月日

二、返信用封筒に住所、氏名(送り先)を記載し、

返信切手を貼って同封して下さい。

尚、証明書類の部数が多い場合には、返信料が不足しないようお考えの上、切手を貼って下さい。

三、証明書作成手数料は次の通りです。

(イ) 卒業証明書 一通につき 二〇円

(ロ) 成績証明書 同 右 三〇円

(ハ) 大学受験用調査書 同 右 五〇円

四、送 り 先

高知県須崎市多の郷和佐田五四四五の二〇

☎785 TEL(08894)②1861

高知県立須崎工業高等学校 事務室宛

以上宜しく願います。



この会報「にしきうら」は、須工同窓会として、初めての会報らしいものであると思ひます。

これまで何回か、それらしきものを発行したことはありますが、いずれも散発的で、継続的なものではありませんでした。

「にしきうら」は、ご承知の通り須崎の海であります。須崎の海が、海であるかぎり、この名称は続くものです。

会報「にしきうら」も、須崎の海のように永遠なものであることを祈って、また同時に須工同窓会も、絶えることなく波を寄せる須崎の海のようにあれかしと祈って、全世界が海を通じて結ばれるように、この会報「にしきうら」を通じて母校と同窓会員を結ぶようにとの意を含めて命名しました。

一口に会報をだすといっても、一人や二人の力ではとうてい成し得るものではありません。会員の皆様のご協力、ご援助、そしてご鞭撻があつてこそ、名に恥じない会報として存続するものと思ひます。

第一号である本誌は、編集の不馴れもあつて、決して皆様を満足させるものではないと思ひますが、今後は、各方面の御意見をお聴きしながら、さらに内容の充実を計つていきたいと思ひます。

終りに際し、編集にあつた前校長沢本先生を始め、御協力を賜つた前校長沢本先生を始め、御多忙中、心よく原稿をお書き頂いた母校の先生方や、同窓の諸兄、さらには広告を提供頂いた各企業の御厚意に対し、厚く御礼を申し上げますと共に、今後共宜しく御指導、御協力をお願い申し上げる次第です。

昭和四十七年七月一日

(森岡記)

昭和四十七年九月十五日印刷	高知県須崎工業高等学校同窓会
昭和四十七年九月二十三日発行	会長 田 辺 博 造
印刷所	高知県須崎市浜町二丁目八一三
発行所	高知県須崎市多の郷和佐田五五ノ三
	中央印刷株式会社
	高知県立
	須崎工業高等学校同窓会

編集委員

委員長	田 辺 博 造 (会長)
副委員長	矢 野 亀 雄 (副会長)
委員	清 家 寛 (高知支部長)
	島 崎 良 一 (事務局長)
	田 村 泰 雄 (事務局)
	田 村 耕 古
	広 田 四 郎
	岡 林 幸 保
	柏 井 秀 有
	中 西 安 男
	竹 村 昌 孝
	森 岡 清
顧問	沢 本 豊 (前校長)
	久 正 一 (教 頭)

第二号は昭和四十八年三月一日(卒業式)に発行予定です。

あつてはならぬことと
念じつつも
ご用の節は
ぜひお願いします。

至高知
梅花堂薬品
電々公社(高須)
4
工事中
自動車板金・塗装
専門工場
ユナイトオートサービス
高知市高須西の丸923
☎3004
高知支部会員 1名
従業員募集中です。

同窓会員の旨、お申し付け下さい。
特別料金と致します。

工作 機械 モートル
木工 鋼 材

高知市城見町

 由井産業株式会社

電話 { 代 ☎3131-5
☎26320
倉庫 ☎6428・6456
工場 ☎1017

(会員) 専務取締役 (18年機械科卒) 木下善次郎

店舗設計・施工・宣伝企画

株式会社 関西アートセンター

21年機 矢野栄己

高知市本町6215 関西ビル TEL 75-7969
(自宅)土佐市高岡町中町 TEL (08885) 2-0561

備パーラー やました

備ショッピング やました

25年造船 代表者 山下登志夫

須崎市東古市町 1026
(代) TEL ②2381



—FRP造船用樹脂の最高級品**タケタ**”のポリマール

陸、船用塗料全般・FRP造船資材全般 卸

FRP用・塗装用機械・器具・各種接着剤・屋上防水材料・流出油処理剤

理想的の木材防腐・防虫・強力保護剤（特許第602073号）ソートエキス 総発売元

☆特約メーカー☆

日本油脂(株)・日本特殊塗料(株)・イサム塗料(株)・カナエ塗料(株)・新日東化学(株)
武田薬品工業(株)・日本硝子繊維(株)・旭大隈産業(株)・明治機械(株)・サンスター化学工業(株)

藤本塗料興業株式会社

代表取締役 藤本 重忠 専務取締役 藤本 幸造 (25年機)

本 社 高知市棧橋通り3丁目25-30 TEL高知 (0888) 83-5281(代)

須崎支店 須崎市新町2丁目3-23 TEL須崎 (08894) 2-1820(代)

総合建設業



高知市追手筋28

TEL72-7101(代)

関西土木株式会社

取締役副社長 笹岡 勲 (21年機)

一級建築士 刈谷 雅幸 (21年機)

取締役建築部長 川上登志喜 (29年機)

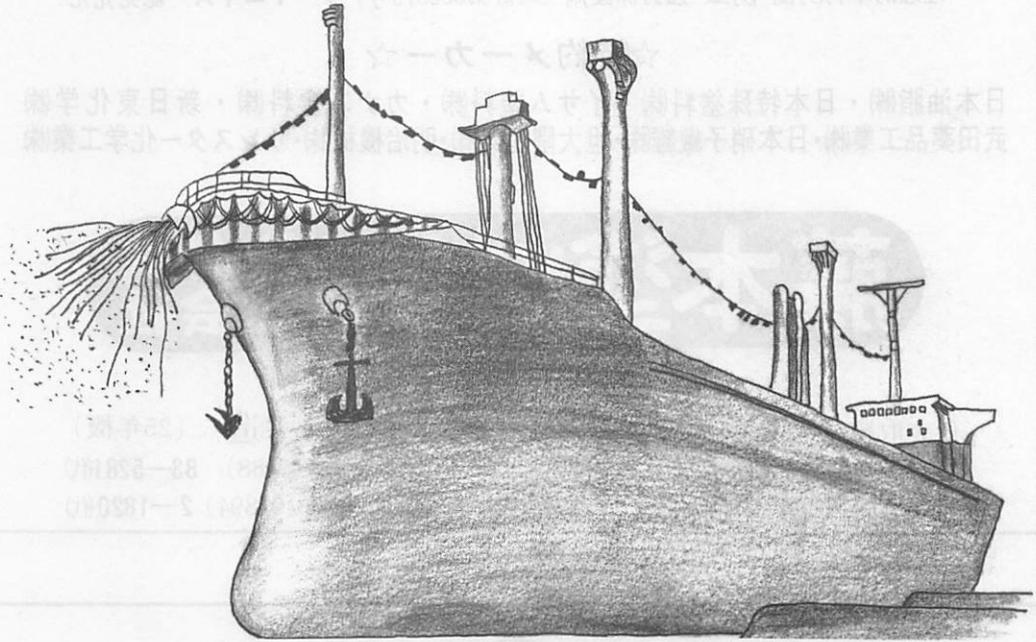
測 量 部 藤原 博 (43年機)

土 木 部 岡部 照憲 (45年機)

測 量 部 矢野 和男 (46年機)

建 築 部

世界に雄飛する 高知市の造船、造機



〈高知支部会員合計 120名〉

今井造船株式会社

順不同

取締役社長 今井 繁馬

高知市仁井田新築四三三 ④四七一一三三代

高知重工株式会社

取締役社長 井原 為市

高知市仁井田新築四三二九 ④四七一一一二代

株式会社新山本造船所

取締役社長 江原 守

本社 徳市真慶町野田 ④神戸交一九三二代
高知造船所 高知市種崎二五 ④四七〇三二二代

高知県造船株式会社

取締役社長 石崎 恭平

高知市長浜五〇一五 ④四一一三五二代

永宝造船株式会社

取締役社長 飯谷 光雄

高知市仁井田中洲 ④四七一二六六代

大永造船株式会社

専務取締役 榑原 敏夫

高知市仁井田中洲 ④四七一二〇二代

株式会社大東造船所

取締役社長 川越 米継

高知市仁井田新築四三一 ④四七〇二八二代

株式会社泉井鉄工所

取締役社長 泉井 修

本社 室戸市浮津一八 ④室戸二二三六(代)
高知工場 高知市種崎六八 ④四七〇二四五(代)

営業種目

(1)自動車

スカイライン 1,500ccセダン・ハードトップ ◆グリッパー 2,000cc 2t積トラック
" 1,800cc " " " ◆ホーマー 1,600cc1.25t積トラック
" GT 2,000cc " " " ◆ " 1,600cc1.5t積トラック
グロリア 2,000cc " " " ◆特殊自動車(ダンプ・クレーン車等)

(2)自動車部品販売並に修理

カークーラー・ステレオ・各種バッテリー他

(3)自動車保険取扱

日産プリンス高知販売株式会社

代表取締役 原 正生

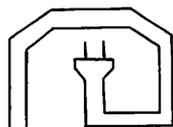
取締役業務部長 広田 四郎 (会員18年機)

本社 高知市本町4丁目5の7 TEL 82-2271(代)

中村営業所 中村市具同字山伏谷6775 TEL 5-4118・4119

—電気設備設計施工—

この道一筋26年



YOSHI OKA

吉岡電工株式会社

代表取締役 吉岡 豊延

高知市北竹島町103 TEL 22-5860
72-7972

—20.機—出身 高岡郡葉山村 (旧下半山村)